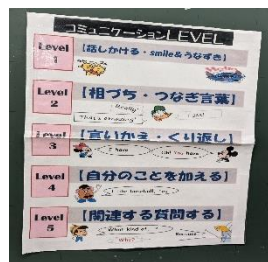


令和6年度 第10回「南城市教育の日」

南城市学力向上実践報告書

子ども一人一人の資質・能力を伸ばす「学び」の
機会と質の保証



南城市

「教育の日」



南城市



令和6年度



南城市学力向上推進協議会
南 城 市 教 育 委 員 会

あ い さ つ

本日各学校にて、第10回「南城市教育の日」を開催するにあたり主催者として一言ごあいさつ申し上げます。

本市においては、学校教育に対する市民の意識と関心を一層高め、学校・家庭・地域の教育力向上及び充実を図るために、1月を南城市教育月間として位置づけ、明日を担う子どもたちの健やかな成長を願って、市全体で教育に関する取組を推進しているところであります。

その関連行事として「南城市教育の日」を設定しております。今年度も本市児童生徒の活躍は輝くものがありました。各学校では、児童生徒が先生方のご指導、保護者・地域の皆様の温かいご支援を受け、学力・スポーツ・文化面で優秀な成績をおさめることができました。児童生徒のスポーツ・文化面での活躍と先生方の熱意ある教育実践は南城市の誇りです。今後とも努力を続け共に向上していきましょう。さらなる飛躍を期待しています。

さて、児童生徒の学習面に置きましても、児童生徒の学力向上のために市内小中学校が一丸となって「主体的・対話的で深い学び」のある授業を目指し取り組んでおります。また、先生方が効果的なICT活用を意識した授業づくりに励み実践することで、個別最適な学び及び協働的な学びが生まれる授業が進められています。そして、教師の資質能力の向上を目的とした研修では、小中学校学力向上推進・校内研修主任による授業研究、校区内幼小中連携での授業参観と授業研修会、小中学校外国語担当者研修等も実施しました。地域ボランティアの皆さんからも学習支援・安全面等に多大なご協力を得ております。地域の方からご支援頂いた温かい思いは、今後も子どもたちの学びや豊かな生活を支える基盤となることでしょう。各幼小中の実践報告から生き生きとした子どもの姿が伝わってきます。今後とも子ども一人一人の資質・能力を伸ばす「学び」の機会と保証に努め、子供たちが学校や地域、家庭で学んだことを活かしながら、様々な課題に立ち向かい解決していける力を育んでいきたいと思います。

結びに、本市の学力向上にご尽力いただいた学校関係者、並びに保護者、地域の皆様に感謝申し上げます。そして、今後とも本市の学力向上推進にご理解とご協力をお願い申し上げまして、あいさつといたします。

令和7年1月26日
南城市教育委員会
教育長 具志堅兼栄

令和6年度 第10回「南城市教育の日」実施要項

南城市教育委員会

1. 趣 旨

授業参観等を通して、本市の学校教育に対する市民の意識と関心を一層高め、学校・家庭・地域の教育力の向上及び充実を図る。

2. 期 日

令和7年1月26日（日） 学校公開【授業参観・学習発表会等】（特別日課）

3. 場 所

小・中学校 ※久高小中学校は1月24日（金）に行う

4. 主 催

南城市教育委員会、各学校運営協議会（コミュニティースクール）

5. 参加者

幼小中学校教職員、保護者、学校関係者、南城市民

6. 内 容

- (1) 小・中学校の授業参観等を実施する。＊給食は無し。
- (2) 日頃の学力向上推進の実践を学校部会等がホームページにて発表する。
- (3) 年間を通して児童生徒の善行賞、活動賞並びに教職員へ教育実践賞を設け表彰する。
ホームページにて発表・表彰は各学校にて校長が行う

7. 役割分担

- (1) 児童生徒の表彰及び教職員実践賞等については、各小中学校及び関係団体と連携し教育総務課が担当する。

8. 表彰者の推薦

- (1) 児童生徒等の表彰については、教育・文化・スポーツ活動等の分野において顕著な成績を収めた児童生徒及び他の児童生徒の模範となる功績が認められものを学校から推薦する。
推薦に関しては「南城市児童生徒等表彰実施要綱」に基づいて行う。
- (2) 教職員の実践賞については、各学校の職員・PTA・地域から評価が高く、かつ実績のあったものを学校から推薦する。推薦に関しては「南城市教育の日」教職員表彰規定に基づいて行う。
 - ① 各幼稚園・小学校・中学校、若干名とする。
 - ② 校長、教頭は対象外とする。
 - ③ 表彰該当者がいない場合、表彰は行わない。

令和6年度南城市学力向上推進要項

南城市学力向上推進協議会

1 南城市の教育目標

- (1) 家庭・地域の教育力の向上
- (2) 幼児・児童・生徒一人一人の個性を伸ばし、生きる力をはぐくむ
- (3) 生涯学習の理念のもと積極的に学び、成果を活かす市民の育成
- (4) 南城市民としてのアイデンティティの確立

2 南城市学力向上推進目標

(1)	子ども一人一人の資質・能力を伸ばす「学び」の機会と質の保証
年度	推進目標
○令和4年度 ○令和5年度 ○令和6年度	全国学力学習状況調査において小学校全科目全国平均正答率の維持、及び中学校において全国水準まで向上させる。

- (2) 加えて、本市の具体的達成目標として、以下の4つを達成する。

【南城市の達成目標】※次年度の全国学力学習状況調査の結果	
①「自分には、よいところがあると思いますか」で「当てはまる」を35%以上、「どちらかといえば当てはまる」を合わせると90%以上を達成する。 ※R5 小6「当てはまる」35.1%「どちらかといえば当てはまる」46.7%(81.1%) ※R5 中3「当てはまる」39.7%「どちらかといえば当てはまる」46.1%(85.8%)	
②「学校に行くのは楽しいと思いますか」で「当てはまる」を50%以上、「どちらかといえば当てはまる」を合わせると90%以上を達成する。 ※R5 小6「当てはまる」43.4%「どちらかといえば当てはまる」41.0%(84.4%) ※R5 中3「当てはまる」43.3%「どちらかといえば当てはまる」36.8%(80.1%)	
③「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」「当てはまる」を30%以上、「どちらかといえば当てはまる」を合わせると70%以上を達成する。 ※R5 小6「当てはまる」31.2%「どちらかといえば当てはまる」42.4%(73.6%) ※R5 中3「当てはまる」19.5%「どちらかといえば当てはまる」44.0%(63.5%)	
④「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」「当てはまる」を35%以上、「どちらかといえば当てはまる」を合わせると80%以上を達成する。 ※R5 小6「当てはまる」25.2%「どちらかといえば当てはまる」48.7%(73.9%) ※R5 中3「当てはまる」28.5%「どちらかといえば当てはまる」47.8%(76.3%)	

※③については、学校評価の項目に加えて下さい。

3 成果指標

- (1) 全国学力・学習状況調査を指標とする。
 - 小学校全科目全国平均正答率の維持、及び中学校において全国水準まで向上
 - 平均正答率30%未満児童生徒の割合及び無解答率の減少
- (2) 上記4項目で、児童生徒の達成状況を把握する。

4 達成目標実現の手立て

- (1) 沖縄県学力向上主要施策「学力向上推進プロジェクトⅡ」（令和2年度～令和6年度）及び「令和6年度島尻教育の基本方針」と南城市の現状と課題を踏まえ、「確かな学力」の向上をめざし推進する。

- (2) キャリア教育の視点を踏まえ、幼児児童生徒に「学ぶ意義」や「働く意義」を実感させ「学ぶ意欲」を向上させる取組を推進する。
- (3) 全ての幼児児童生徒を尊重し、認め、受け入れ、教師と幼児児童生徒が共に成長していこうとする教育を推進(実践)する。
(取組例) 人権意識を高める築くための言語環境の整備
・ていねいで、優しく、正しい言葉があふれる学校(教師が模範となる)
- (4) 主体的・対話的で深い学びに迫る授業を推進(実践)する。
(取組例) ○全国学力・学習状況調査報告書の授業アイデア例を参考にする
○学びの接続を意識し幼小中で授業改善を図る。
- (5) 特別支援教育の視点を踏まえ、教室環境の整備・授業(保育)のユニバーサルデザイン等、幼児児童生徒一人一人に寄り添ったインクルーシブ教育の視点に立った学級・学校経営を推進する。

5 具体的取り組み

- 「沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ」と関連付け、3つの視点「自己肯定感の高まり」「学び・育ちの実感」「組織的な関わり」、5つの方策(具体的取り組み)を通して、各学校の授業改善・学校改善を推進する。
※【視点1】を成果指標とする。

【 行政 】

	方 策	【視点1】 自己存在感の実感 (自己肯定感の高まり)	【視点2】 学び・育ちの実感	【視点3】 組織的な関わり
方 策 1	日常化する 【授業改善】	教育指導課 ☐ 学習指導要領を基に、『学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ』や『「問い」が生まれる授業サポートガイド』等を活用して、日常の授業を見直し、授業改善を図る。 ☐ 教職員協働による授業改善の充実に向けた取組 ☐ 各種取組を通して日常的な授業改善を支援する。		
方 策 2	そろえる 【組織的共通実践】	教育指導課 ☐ インクルーシブ教育の視点での学級経営の充実及び児童生徒一人一人に応じた指導を推進する。 ・Q-Uを活用したアセスメントの明確化 ・インクルーシブ教育の視点での学級・学校経営 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業、環境づくり		
方 策 3	支える 【学校支援】	教育指導課 ☐ 学校訪問を通して、学校と教育委員会との連携強化及び教育活動の充実を図る。 ☐ キャリア教育担当者連絡会を開催し、各校のキャリア教育の充実に努める (学推：授業改善) ☐ 主体的・対話的で深い学びに迫る授業改善を図る。 (学推主任・校内研修主任連絡会／中学校研修の日) 全国学力・学習状況調査報告書の授業アイデア例を示す ☐ アセスメントテストを活用し、到達度の把握、授業改善を図る。 標準学力テスト(4月：中学1,2年生) 学力テスト(10月：中学3年生) ☐ 沖縄県教育委員会研究指定校の推奨 ・船越小学校：体育 (学推：幼小、小中連携) ※幼：保育所、幼稚園、こども園を含む		

		□幼児教育と小学校、中学校の育ちをつなぐ。 (学推：幼児教育) □市内統一テーマを基にした5園研修の充実を図る。 (学推：特別支援教育) □認知トレーニングの実施、MIM教材の活用を広げる。 □SST（ソーシャルスキルトレーニング）及びSGE（構成的グループエンカウンター）等の研修会を行い、授業や学級経営を支援する。 □Q-Uを活用したアセスメントを支援する。 (学推：外国科教育) □「南城市小中外国語研修会」において、講師を招聘し、小・中連携した外国語科における指導と評価、授業づくりを支援する。 (学推：ICT活用) □GIGAスクール構想(1人1台PC配布)におけるPC活用を支援する。 (学推：不登校・登校渋り改善) □各学校の生徒指導、教育相談担当とハート教室の連携・協働 (学推：学校図書館充実) □司書教諭が連携協働をし、読書を楽しむ児童・生徒の育成を図る。 教育総務課 □「子どもとしっかりと向き合い、質の高い授業、教育活動ができる働き方」をめざし、学校業務改善を推進する。 生涯学習課 □スポーツ少年団や部活動の終了時刻厳守等家庭学習時間の確保と定期的な休養を確保する取組を推進する。 □リーダー育成キャンプ、ESLキャンプ、海外短期留学、中国国際交流事業を実施する。
方策4	見通す 【カリキュラム・マネジメント】	教育指導課 □学校課題解決に向けた組織マネジメント機能を高める。 □学校評価と関連付けたカリキュラムマネジメントの確立
方策5	つなぐ 【学校・地域連携】	教育指導課・生涯学習課 □幼小連携と幼児教育の充実を推進する。 □幼小中連携の取組を通して中学校区での児童生徒の育成を推進する。 □コミュニティ・スクールの取り組みで地域と課題や目標を共有し取り組む。 □地域学校協働活動を充実させ、各学校の「地域教育資源」の活用を推進する。 「ミントウンの会、ちにん太陽の会、さしちぬ会、うふざとうぬ会」 □学校における体験活動を推進するため 様々な機関との交流活動の取組を推進する。

【 公私連携型認定こども園・公立認定こども園・幼稚園 】

	方 策	【視点1】 自己存在感の実感 (自己肯定感の高まり)	【視点2】 学び・育ちの実感	【視点3】 組織的な関わり
	○幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が示す、資質・能力を明確にした教育課程を編成する。 ○幼児教育で目標としている心情・意欲・態度を培い、生きる力の基礎を育む。 ○カリキュラム・マネジメントと関連付けながら、学校評価を実施する。			
方策1	日常化する 【保育の充実】	☐「遊びこみ」を通して「10の姿」を育む。 ☐幼児一人一人の行動理解と予想に基づき、計画的に環境を構成する。 ☐自ら興味・関心を抱いたことに存分に取組む環境と時間を確保する。		
方策2	そろえる 【組織的共通実践】	☐遊びを通して心情・意欲・態度を育成されるように指導する。 ☐生活リズムカードを活用して、基本的な生活習慣を確立し、自立心を育む。 ☐幼児教育関係者研修会と園内研修の充実を通して、資質の向上と各園の課題解決に努める。 ☐市内統一テーマを基に5園研修を行い保育の充実を図る。 ☐インクルーシブ保育の視点での園・学級経営の充実及び幼児一人一人に応じた指導に努める。		
方策3	支える 【発達の支援】	☐互いを受け入れられる温かい人間関係の構築を図る。 ☐人の役に立つ喜びを味わう活動を行うとともに自分のことは自分でできるように指導を工夫する。 ☐具体的に「支える」「認める」ことばかけや、幼児が考えて行動できるようなことばかけをすることにより、幼児に自己存在感を実感させ自己肯定感・自己有用感を育む。		
方策4	見通す 【学校組織マネジメント】	☐保育カンファレンスを実施し、協働でドキュメンテーションを作成する。 ☐学力向上年間サイクルの活用 ☐アプローチカリキュラムの実践 ☐教育目標を明確にし、PDCAサイクルを通して学校評価を行う。 ☐ドキュメンテーションを適宜作成する。		
方策5	つなぐ 【学校連携・地域連携】	☐「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有し、接続期カリキュラムを協働で見直し小学校教育との円滑な接続を図る。【幼小連携】 ☐幼児教育センター・公立認定こども園を結節点として、就学前施設間の連携を図るとともに円滑な接続めざす。		

【 小中学校 】

	方 策	【視点1】 自己存在感の実感 (自己肯定感の高まり)	【視点2】 学び・育ちの実感	【視点3】 組織的な関わり
	○授業の質的な改善を図り「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。 ○学習指導要領を読み込み、授業の焦点化を図る。			
方策	日常化する 【質的授業改善】	☐「学力向上推進プラン・プロジェクトⅡ」に基づく授業改善、他者と関わりながら問題解決に向かい「問い」が生まれる授業を目指す。 ☐学ぶ意義・身に付けさせたい力の明確化、指導内容の吟味、指導方法の工夫・改善を行う。 (「指導の個別化」「学習の個性化」)		

1		☐ ICTや視聴覚機器を効果的に活用したわかる授業の推進を図る。 ☐ 学年会や教科会、校内研修等を充実させる。
方策2	そろえる 【組織的共通実践】	☐ 「全国学力・学習状況調査」や沖縄県学力定着状況調査「学びのたしかめ」（県Webシステム）、沖縄県学力到達度調査を活用した実力調査等の結果を分析し、「授業における基本事項」や「問いが生まれる授業サポートガイド」等を活用して組織的に授業改善に取り組む。（本市実施標準学力テスト・中学3年生学力調査の結果も活用） ☐ 学力向上マネジメントの推進 ☐ 教師が模範となった人権意識を高め築くための言語環境の整備・推進を図る。 ☐ 学校経営ビジョンを共有した取組の推進 ☐ 管理職による日々の授業観察とフィードバックの取組を推進する。 ☐ インクルーシブ教育の視点での学級経営の充実及び児童生徒一人一人に応じた指導に努める。 ・Q-Uを活用したアセスメントの明確化 ・インクルーシブ教育の視点での学級・学校経営 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業、環境づくり
方策3	支える 【発達の支援】	☐ 豊かな心や確かな学力の育成に向けた取組を、特別教育の視点で再確認し、児童生徒一人一人を大切にする教育を推進する。 ☐ 児童生徒を適宜、具体的に「支える」「認める」ことばかけや、児童生徒が考えて行動できるようなことばかけをすることにより児童生徒に自己存在感を実感させ自己肯定感・自己有用感を育む。 ☐ 学習支援員・特別支援教育支援員を効果的に活用し、個に応じたきめ細かな指導を進める。 ☐ 将来の夢や希望を形づくる学習で「なりたい自分」を広げ、様々な知識や技能を身につけ「なれる自分」を広げる。 ☐ 「キャリア・パスポート」の活用 ・児童生徒一人一人が自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりできるようにする。 ・「キャリア・パスポート」に学びのプロセスや自己評価等を記述することを通して、小中高12年間の学びの履歴をつなぎ、自立した社会人・職業人の育成を図る。
方策4	見通す 【学校組織マネジメント】	☐ 学力向上年間サイクルの活用 ☐ カリキュラム・マネジメントの実施 ☐ 児童・生徒と教職員が学習の履歴や、年間を見通せる掲示物を作成する。
方策5	つなぐ 【学校連携・地域連携】	☐ 幼小中が連携し系統的・継続的な授業改善を推進する。 ☐ スタートカリキュラムを工夫し、幼児教育から小学校教育への円滑な移行を図る。 ☐ 小中相互の授業参観や協働での授業実践を推進する。 ☐ 地域教育資源や本物に触れる活動を通じた取組で「学ぶ意義」や「働く意義」「地域貢献への芽生え」を醸成する。 ☐ お仕事調査隊、職場見学や職場体験学習を教科等の内容と繋ぐことで取組の充実を図る。 ☐ コミュニティ・スクールの取組みで学校とともに地域と課題や目標を共有し、子供を育む。 ☐ 地域学校協働本部事業（活動）の充実 「ミントウンの会、ちにん太陽の会、さしちぬ会、うふざとうぬ会」

【 家庭・地域 】

	方 策	【視点1】 自己存在感の実感 (自己肯定感の高まり)	【視点2】 学び・育ちの実感	【視点3】 組織的な関わり
	○全ての保護者の学びや育ちを支援する。 ○コミュニティ・スクールの取り組みによる地域とともにある学校づくり			
方 策 1	日常化する 【家庭教育の充実】	周知・広報 ☐子どもに「働くこと」「勉強すること」の関係や将来の夢や希望について子どもと語り合う。(対話の充実) ☐家族の一員として役割を与えたり、お手伝いをさせたりすることで家族の役に立つことの喜びを味わわせる。 ☐あいさつや返事ができるようにする。(規範意識・マナーの向上)		
方 策 2	そろえる 【組織的共通実践】	周知・広報 ☐幼児児童の生活リズム向上を図るため、「食べて・動いて・よく寝よう」運動に取り組む。(生活リズムの確立) ☐家庭における読書活動を充実させ、言語における能力を培うとともに、豊かな心を育む。(第3日曜日のファミリー読書の実施)(読書動の充実) ☐「地域の子は、地域で守り育てる」4つの共通実践の推進を図る。(大人版G0家運動、親子、地域でコミュニケーションを持とう、大人が変われば子どもも変わる運動、未成年者の飲酒・喫煙防止の取組)		
方 策 3	支える 【家庭教育の支援】	☐家庭教育の充実を図るために、「家～なれ～運動」「G0家運動」に取り組む。 ☐県や市が主催するプログラムへ参加し家庭教育の充実に役立てる。 ☐幼児児童生徒が子ども会・スポーツ少年団等の地域活動を通して自主性や社会性を育成する。 ☐地域では、幼児児童生徒の登下校時や帰宅時の安全安心を見守る活動を展開し家庭教育を支援する。		
方 策 4	見通す 【組織マネジメント】	☐学校と目指す児童生徒像を共有し、「社会に開かれた教育課程」実現への素地を育む。 ☐コミュニティ・スクールの取り組みで地域と課題や目標を共有する。		
方 策 5	つなぐ 【学校連携・地域連携】	☐コミュニティ・スクールの取組みで学校とともに子供を育む。 ☐学校と連携し主体となって「家庭学習」を充実させる。(家庭学習の習慣化) ☐地域の伝統文化行事に関する活動に積極的に参加させ、世代間交流でコミュニケーション能力を育成する。(体験活動と対話の充実)		

令和6年度「南城市教育の日」児童生徒等表彰・教職員表彰・教育委員会表彰一覧表

学 校 名	区 分	活 動 等
佐敷中学校	スポーツ活動	第55回全国中学校卓球大会 男子個人戦シングルス 出場 第53回九州中学校卓球競技大会 男子個人戦シングルス 出場 第66回沖縄県中学校卓球競技大会 男子個人戦シングルス 優勝
佐敷中学校	教育・文化活動	令和6年度沖縄県中学校技術・家庭科生徒作品展(家庭科授業内作品部門)最優秀賞、第24回全国中学生創造ものづくり教育フェア出品
佐敷中学校	スポーツ活動	Palmバレーボールスクール所属 第36回ビーチバレー OKINAWA 2024(4人制中学男子の部)優勝
佐敷中学校	スポーツ活動	バスケットボールクラブstandard所属 九州クラブU15バスケットボールゲームス優勝
佐敷中学校	スポーツ活動	HEARTバスケットボールクラブ所属 九州クラブU15バスケットボールゲームス2024優勝、第13回U15クラブバスケットボールゲームス(全国大会)出場
佐敷中学校	スポーツ活動	HEARTバスケットボールクラブ所属 九州クラブU15バスケットボールゲームス2024優勝、第13回U15クラブバスケットボールゲームス(全国大会)出場
佐敷中学校	スポーツ活動	HEARTバスケットボールクラブ所属 九州クラブU15バスケットボールゲームス2024優勝、第13回U15クラブバスケットボールゲームス(全国大会)出場
佐敷中学校	スポーツ活動	HEARTバスケットボールクラブ所属 九州クラブU15バスケットボールゲームス2024優勝、第13回U15クラブバスケットボールゲームス(全国大会)出場
佐敷中学校	スポーツ活動	HEARTバスケットボールクラブ所属 九州クラブU15バスケットボールゲームス2024優勝、第13回U15クラブバスケットボールゲームス(全国大会)出場
佐敷中学校	スポーツ活動	HEARTバスケットボールクラブ所属 九州クラブU15バスケットボールゲームス2024優勝、第13回U15クラブバスケットボールゲームス(全国大会)出場
佐敷中学校	スポーツ活動	HEARTバスケットボールクラブ所属 九州クラブU15バスケットボールゲームス2024優勝、第13回U15クラブバスケットボールゲームス(全国大会)出場
佐敷中学校	スポーツ活動	ポニー沖縄ダイヤモンドベースボール倶楽部所属 第3回西日本大会 優勝
佐敷中学校	教育・文化活動	日本漢字能力検定 2級 合格
佐敷中学校	教育・文化活動	日本漢字能力検定 2級 合格
佐敷中学校	教育・文化活動	日本漢字能力検定 2級 合格 実用英語技能検定 2級 合格
知念中	スポーツ活動	九州クラブU15バスケットボールゲームス2024優勝 (キャプテン)
知念中	教育・文化活動	「沖縄ドリームプロジェクトアワード2024」受賞
大里中学校	教育・文化活動	令和6年度JA共済全国小・中学生書道・交通安全ポスター沖縄県コンクール 沖縄県知事賞

大里中学校	教育・文化活動	第65回動物愛護の作文コンテスト 中学生の部 一等賞
大里中学校	教育・文化活動	令和6年度「私たちの文化財」図画作品 最優秀賞
大里中学校	教育・文化活動	第64回沖縄県児童・生徒科学賞作品展 優良賞 (第63回優秀賞 第62回優良賞)
大里中学校	教育・文化活動	第46回「全日本中学生水の作文コンクール」 優秀賞(県) 中央審査(佳作)
大里中学校	教育・文化活動	第46回「全日本中学生水の作文コンクール」 優秀賞(県) 中央審査(佳作)
大里中学校	スポーツ活動	①第70回全日本中学校通信陸上競技選手権【沖縄】大会兼第51回全日本中学校陸上競技選手権大会標準記録突破指定大会 1位 ②第44回沖縄県夏季中学校陸上競技大会 1位(九州大会派遣)
大里中学校	スポーツ活動	①2024オールキッズトライアスロンジャパン 総合3位 ②第38回長良川国際トライアスロン大会 区分1位(総合24位)
大里中学校	スポーツ活動	公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ 準優勝
大里中学校	スポーツ活動	沖縄県中学校体操・新体操大会 新体操 女子種目別 リボン・優勝 フープ・優勝 個人総合・優勝
大里中学校	スポーツ活動	第66回沖縄県中学校水泳競技大会 女子自由形800m 1位、400m 1位
大里中学校	教育・文化活動	日本漢字能力検定 2級 合格
大里中学校	教育・文化活動	実用英語技能検定 2級 合格
大里中学校	教育・文化活動	実用英語技能検定 2級 合格
大里中学校	スポーツ活動	第66回沖縄県中学校水泳競技大会 女子自由形800m 1位、400m 1位
玉城中学校	スポーツ活動	第44回沖縄県中学校バドミントン競技大会 3位
玉城中学校	スポーツ活動	第55回全沖縄ジュニア陸上競技選手権大会 男U16 1000m 2位
玉城中学校	スポーツ活動	第66回沖縄県中学校ソフトテニス競技大会 団体 優勝 九州大会出場
玉城中学校	スポーツ活動	第66回沖縄県中学校ソフトテニス競技大会 個人準優勝 九州大会出場
玉城中学校	スポーツ活動	第66回沖縄県中学校ソフトテニス競技大会 個人準優勝 九州大会出場
玉城中学校	スポーツ活動	第66回沖縄県中学校ソフトテニス競技大会 個人3位 九州大会出場

玉城中学校	スポーツ活動	第66回沖縄県中学校ソフトテニス競技大会 個人3位 九州大会出場
玉城中学校	スポーツ活動	第44回沖縄県中学校バドミントン競技大会 男子シングルス3位 九州大会出場
玉城中学校	スポーツ活動	九州クラブU15バスケットボールゲームス2024 優勝
玉城中学校	教育・文化活動	日本漢字能力検定 二級合格
玉城中学校	教育・文化活動	日本漢字能力検定 二級合格
玉城中学校	教育・文化活動	日本漢字能力検定 二級合格
玉城中学校	教育・文化活動	「沖縄ドリームプロジェクトアワード2024」受賞
玉城中学校	教育・文化活動	第43回全国中学生人権作文コンテスト沖縄県大会 那覇地方法務局長賞
久高中学校	教育・文化活動	中学生の「税についての作文」コンクール 沖縄県納税貯蓄組合連合会会長賞

※児童生徒表彰については、氏名を省略します。

令和6年度「南城市教育の日」教職員表彰

学 校 名	氏 名	活 動 等
玉城中学校	仲里 純一	バスケット部指導及び特別支援教育
玉城中学校	野村 和香子	バドミントン部指導
大里中学校	渡名喜 優	バレー部指導 沖縄選抜の監督
船越小学校	城間 盛覚	体育研究指定校の研究主任

令和6年度「南城市教育の日」教育員会表彰

新垣 聰 様	教育委員会表彰	令和5年2月14日死去の新垣聰様から大里南小学校に100万円分(576冊)の図書 の寄贈(実姉の又吉徳恵様からの申し出)
--------	---------	---

1 実践事項

「新学習指導要領に即した外国語教育」
～「言語活動を通して学ぶ」授業改善を通して～

2 実践内容

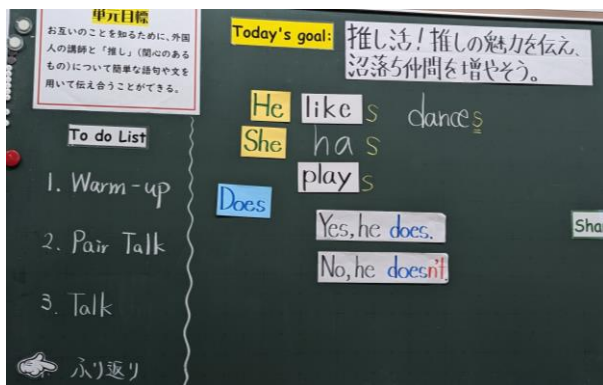
(1) 目的

「中学校研修の日」に自主研修を行うとともに文部科学省外国語調査官を招聘し、講話や演習を通して、学習指導要領で求められてる言語活動や評価等について学び、小中連携で外国語の授業づくりの充実に資する。

(2) 計画

- ① 校区内授業参観（小中連携）
- ② 中学校研修の日
- ③ 小中学校外国語研修会（調査官招聘授業参観）
- ④ オンライン英会話（スパトレ株式会社）

3 実践



【小中学校外国語研修会】

大里中学校1年生の学級で調査官招聘授業を行った。今回は、小学校の学びをどのように中学校の授業に繋げ活かしていくかを授業づくりの軸に据えて研究を重ね授業を作ってきた。子どもたちは小学校で行ってきたコミュニケーションを軸に据えた授業展開に安心し取り組むことができていた。授業後の研修会では、調査官から「話すことのやり取りなのか、発表なのかを

教師がしっかり持って授業を行うことが大事」ということを指摘され、やり取りと発表の違いを分かりやすく助言いただいた。改善すべき課題が明確になり、改善する方法を助言いただいたことで、今後、南城市として共通理解のもと授業改善に取り組んでいきたい。

【校区内授業参観】

中学校校区内で小中が授業を見合い、お互いの授業を知ることで小中の学びを繋げる意識を持つことをねらいとして行っている。今回は、小学校が公開授業を行い、中学校の英語教諭が授業を参観した。

【中学校研修の日】

中学校教諭の教科別の教科会であり、年3回市内中学校の教諭が教科別に一同に集まり、授業改善について話し合い、授業力の向上に努めている。

【オンライン英会話】

各中学校において年2回全学年で行っている。一人一台端末を活用して、オンラインで生徒と外国人講師が1対1でテーマに沿ってコミュニケーションを図る。スパトレ株式会社が、実施する生徒の人数分の外国人講師を手配して、生徒は一人一人異なる外国人講師とコミュニケーションを行う。

4 成果

○校区内授業参観（小中連携）を通して、お互いの授業を見合うことで、それぞれの発達段階に応じた授業展開を知ることができ、自己の授業改善に繋げることができた。

○調査官を招き研修をすることで、国が進めている授業の在り方を直に学ぶことができ、学習指導要領に沿った授業改善を推し進めることができた。

○オンライン英会話においては、実際のネイティブの外国人講師と1対1でコミュニケーションを図り、生徒は日頃の学習の成果を発揮し会話を続けることができたことで達成感に繋がった。

5 課題

○小中連携においては、授業参観をすることでお互いの授業の仕方や授業内容を知ることができているが、今後は更に一步進めて、お互いの授業について話し合える場を設定し、じっくり授業づくりについて意見を重ね、連携を深めていきたい。

1 実践事項

学校教育を担う教員の資質能力向上を目指して
～教職員研修を通して～

2 実践内容

(1) 目的

様々な教育課題に対応した教職員研修を通して、教職員が教育課題に対応する力を身に付け、学力向上の根幹である「授業改善」に日々努めることで、教員の資質能力向上を図り、学校教育の充実に資する。

(2) 計画

- ① 教職員研修会
- ② 特別支援教育教職員研修会
- ③ 幼小中連携授業参観

3 実践

【教職員研修会】

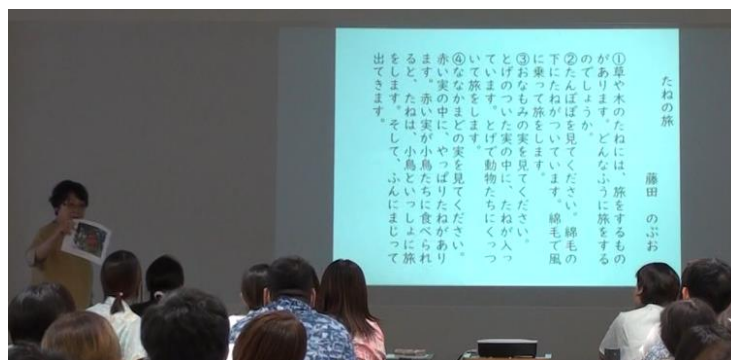
学校が夏休みに入った7月31日に、南城市文化センター・シュガーホールで教職員研修会を開催した。南城市内の幼稚園、こども園、小学校、中学校教諭全職員が一同に集まり行われる研修であるが、今年度は、文部科学省総合教育政策局地域学習推進課から榎木氏をお招きして、「地域・家庭・学校の連携」と題して、コミュニティースクールについての話を中心に講演会を開催した。南城市では、学校運営協議会を令和4年度に全小学校、令和5年度に全中学校に設置している。学校運営協議会は、学校長をはじめ保護者や地域の方で編成されており、よりよい学校運営について話し合いがもたれている。今回の研修では、学校運営協議会の在り方や、学校運営協議会会議（CS会議）でどのようなことが話し合われ、話し合われたことを実現するためにどのように学校、保護者、地域が協力していくのかなど、学校職員の一人として南城市全職員で共通理解し学ぶことができた。

【特別支援教育教職員研修会】

8月14日に南城市役所にて特別支援教育教職員研修会を開催した。元日野市特別支援教育総合コーディネーターである宮崎氏をお招きし、すべての子どもを対象にした教育について学ぶ機会となった。

研修の中では、学級の中には、様々な子どもたちがいて、共に学校生活を送っているが、同じ状況の中において、

何事もなく進められる子もいれば困り感のある子もいる状況がある。それは、学習の中でも言えることで、全ての子どもが同じように主体的に学習に取り組めるようにするにはどのようにすればよいかということに対して、「焦点化・共有化・視覚化」という3つの視点が必要であることを学ぶことができた。研修会の後半には、一つの国語の教材を活用して、先生方に考えさせながら授業づくりのヒントを具体的な場面を通して伝えていた。具体的な場面での説明が、日々の先生方の実践に結びついていて、先生方は自己の授業を振り返りながら一つ一つ納得することがで



き充実した学びの時間となった。

【幼小中連携授業参観】

10月10日、幼小中連携での授業参観を通して、それぞれの発達段階に応じた「主体的・対話的で深い学び」について研修し学びや育ちの接続を意識した授業づくりに資することをねらいとし、幼小中連携授業参観を行った。今年度は、南城市全中学校が公開授業を行い、中学校区内の小学校の教職員が中学校に足を運び授業参観を行う形をとることとした。

「各学年の発達段階に沿った主体的・対話的で深い学びの授業」という視点のもと授業参観及び授業後の研究会を行った。授業では、生徒同士や教材との対話のある授業展開が多く観られた。授業後の研究会では、中学校の授業に対して、小学校の先生方も自分の授業と比較しながら、授業展開の中で感じた良さや疑問を話し、小中の先生方が遠慮せず意見を交える場となった。

学習指導要領に謳われている小中を貫く「主体的・対話的で深い学びのある授業」を共に模索する有意義な研修となった。



4 成果

- 教職員研修を通して、管理職だけでなく全職員がコミュニティスクールについて理解を深めることができた。
- 特別支援教育教職員研修会を通して、先生方が今現在行っている自己の授業を「焦点化」「共有化」「視覚化」の視点から振り返る機会となり、だれひとり取り残さない授業を展開するためには、学級全体を考えるのはもちろんのこと、今よりも更に個に寄り添い考える必要があることに気づくことができた。
- 幼小中連携授業参観を通して、中学校の授業を参観し、「主体的・対話的で深い学び」のある授業について小中の先生方が共に議論することで、学びの繋がりや連携の大切さに気づくことができた。

5 課題

- 教育委員会が学校の実態や課題を把握したうえで、各研修が形式的なもので終わらないように、学校現場の状況をイメージしてすぐに現場で活かせるような研修内容にしていく必要がある。
- 授業参観等の研修では、参観した後にその授業の良さだけでなく課題について意見し合えるような場にしていき、先生方が授業改善という意識を強くもち研修に臨めるようにする。

【作成要領】

学校名 南城市教育委員会生涯学習課	連絡先 TEL : 098-917-5369 E メール : yagi00580@city.nanjo.lg.jp
-----------------------------	--

1 実践事項

学力向上を目指し、地域と学校が協力してボランティアを活用した夏休み補充学習

タイトル：「 令和 6 年度 夏休み補充学習 」

2 実践内容

南城市内の各小中学校において、地域のボランティアが協力し、夏休みに学校と地域が一体となって補充学習を実施しました。ボランティアには、一般市民やボランティア団体、高校生、大学生など、幅広い地域の人々が学習支援に従事しました。運営面では、地域コーディネーターが各学校と連携し、開催場所や時間、人員配置などを調整し、各学校のニーズに応じた科目別の学習支援を行いました。

今回、ボランティアとして参加したのは 39 名で、地域との日常的なつながりを活かし、コーディネート力が発揮されたおかげで、スムーズな運営が実現しました。今後は、この取り組みを基に、中学生の受験対策など、学校と地域がさらに連携できる活動の計画が進められています。



3 成果

地域と学校の連携強化

地域コーディネーターが各学校と密に連携し、ニーズに応じた学習支援が実現したことで、地域と学校のつながりが深まり、学校の教育活動に対する地域の理解と協力が促進されました。

4 課題

地域と学校の連携の持続性

今後もこの取り組みを継続するためには、学校と地域の長期的な連携を支えるための仕組みづくりが必要です。定期的な意見交換や活動報告の場を設け、学校と地域の相互理解を深めることが重要です。

大里中学校の取組内容

「主体的に学習に取り組む態度」を高める指導の工夫・改善の実践

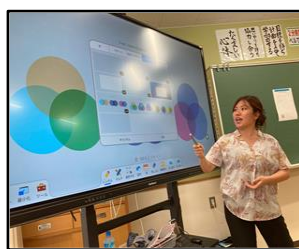
1. 重点事項

- (1) 校内研修を通じた教師の指導力向上の取組強化〔各種指導実践の理論研修〕
- (2) キャリア教育の視点を踏まえた教育活動〔学ぶ意義・意欲の向上〕
- (3) 授業の振り返りを中心とした授業研究会の実施〔教科指導の組織的な工夫・改善〕
- (4) 基礎・基本の定着に課題がある生徒への指導・支援の強化〔個に応じた対応〕

2. 實踐紹介

- (1) 校内研修を通じた教師の指導力向上の取組強化〔各種指導実践の理論研修〕

- ①(株)興洋電子から講師を招いた研修
『電子黒板・SBSノート使い方』



研修の様子



SBS ノート

【振り返り】

- ・教科の授業だけでなく、学級活動でも活用できそうだと感じた。
- ・色々な機能があるので知らないと損をするなと感じた。
- ・今まで手間取っていた活動も学んだ機能でスムーズにいきそうだと感じた。
- ・SBSノートを、授業展開など実際に使っている動画などで、あらためて学習したい。 など

- ## ②全職員による『学習評価の共通確認』

全職員で『学習評価の共通確認』を行った。各教科主任から学習状況のとり方や評価について説明し、意見交換会を行った。その後、教頭からの助言を受けた。「指導と評価の一体化」に関して、学びの多い研修となった。

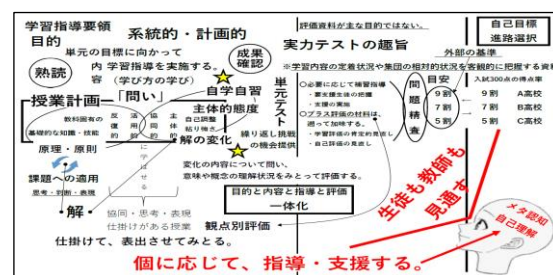
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
--	-------	----------	---------------

[illegible]

国語科ある単元の「学習進行表」

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	読みの正しい英文で書くことができる。	相手の手紙を読んで、 <u>事実や自分の考え、気持ちなどを整理して3つ以上の話題</u> を書いている。	相手の手紙を読んで、 <u>事実や自分の考え、気持ちなどを整理して3つ以上の話題</u> を書くとしている。
B	読みが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて書くことができる。	相手の手紙を読んで、 <u>事実や自分の考え、気持ちなどを整理して2つ以上の話題</u> を書いている。	相手の手紙を読んで、 <u>事実や自分の考え、気持ちなどを整理して2つ以上の話題</u> を書くとしている。
C	(B)を満たしていない	(B)を満たしていない	(B)を満たしていない

英語科ある単元の「評価基準」



教頭からの資料

【振り返り】

- ・国語科の学習進行表の取り組みはとても良いと感じた。基準を示して方法や機会を考え、生徒にどのようにフィールドバックするのか組み立てたい。
- ・私たち教師は「学び方の学びをさせている」「年間を通した学びの評価でよい」ことを改めて知った。
- ・私たち教員は歩く学習辞典ではなく、生徒に寄り添って学び方を学ばせることで成長を支援し、その過程をみとり、評価するという姿勢で教育実践をしていきたい。 など

本校では、さまざまな活動を通して学ぶ意義の理解や意欲の向上に取り組んでいます。

(3) 授業の振り返りを中心とした授業研究会の実施〔教科指導の組織的な工夫・改善〕

①教科の枠を越えた改善 ※普段着の授業でPDCAサイクルの繰り返し、学び合う教師集団づくり



【教師の気づき】

- ・教師が一方的に話していることが多い中で、指示が理解できていなかったり、授業内容についていけない生徒に対する配慮もうまくできるような工夫が必要だと思いました。
- ・単元の初めで調べ学習をすることで、生徒みんなが主体的に取り組むことができていた。
- ・困り感のある生徒を取りこぼさないための手立てがあった。
- ・生徒同士の力で解決できることがあった。生徒に委ねる時間もある必要だということが見えた。
- ・めあての中にキーワードが知らせ、着目させることで子ども達も今日の授業で何をするのか分かりやすかったと思います。
- ・教師の声かけによってあきらめずに粘り強く取り組む姿勢が見られた。

②講師を招いた授業研究会 ※より高い教科指導力島尻教育事務所指導主事を招いての授業改善



【国語部会】

島尻教育事務所の宮平圭一郎指導主事を招いて、学習活動を充実させる授業研究会を行いました。

今年度は、国語科の水下里南先生に言語活動の充実をねらった授業を実践していただき、指導・助言をしてもらいました。

子ども達の対話を中心とした学習活動を仕組むことによって、言語活動が活発になることが分かり、他教科においても授業づくりのヒントになる多くの学びを共有することができました。

※対話的・協働的な学びを充実させるには、教科問わず「支持的風土づくり」という生徒指導の視点を大切にする必要がある。

- ・全教科で支持的風土を作る話し合い活動を増やす。
- ・生徒の興味関心を引きつける課題を設定する。
- ・よい考えや気づきを見える化して共有する。
- ・ペアやグループ等、学習形態を工夫する。



③大里中学校校区の小学校や幼稚園等の先生方を招いた授業研究会

目的：発達段階に応じた「主体的・対話的深い学び」について研修し、学びや育ちの接続を意識した授業づくりに資する。



(4) 基礎・基本の定着に課題がある生徒への指導・支援の強化〔個に応じた対応〕

○夏休み補充学習（3年数学・英語）の取組

○目的：日常の授業での学力保障が難しい児童生徒に対し補習学習を実施し、基礎的な知識技能を身に付けさせる。

○日時：令和6年 7/29（月）・30（火）・8/1（木）・2（金） 14：00～16：00

	7/29（月）	7/30（火）	8/1（木）	8/2（金）
14:00～14：50	数学	数学	英語	英語
15:00～15：50	英語	英語	数学	数学

3. 成果・課題・改善に向けた取組

○成果

- ・夢や目標をもって、楽しく学校生活を送っている生徒が多い。
- ・ほとんどの生徒が、いじめは絶対にいけないことだと理解している。

●課題

- ・授業の理解度や教科を学ぶ意義の理解度が教科間で差が見られる。

※改善に向けた取組

- ・引き続き、効果的な指導実践について共通理解を図り、各教科の魅力を伝えるよう努める。
- ・教師の教科理解・生徒理解を深め、さらなる「わかる授業」づくりを推進する。

1 実践事項

「学びの質を高める授業づくり」

2 実践内容

(1) 「確かな学力」の育成を目指した授業改善

①一人一公開3参観授業の実施

- ・「生徒指導の4つのポイント」を意識した授業づくり
- ・授業前のプランシートの練り合い、授業後のリフレクション
- ・実生活と関連づけた授業や教科横断的授業の工夫

②教科総合訪問（指導主事招聘授業）

③中学校研修の日の幼小中連携授業（9教科授業公開）

④ICT（1人1台端末）を活用した授業実践

- ・Google for Education、ロイロノートアプリの活用

⑤「指導と評価の一体化」の実現

- ・「評価について」の校内研修
- ・採点アプリ「百問繚乱」による成績結果分析

⑥年間カリキュラムを見通し振り返る記録写真の掲示

(2) 家庭学習の習慣化と質の向上

①1日1ページ家庭学習の取り組み

②生徒会学習委員会の活動

- ・毎日の家庭学習帳点検
- ・家庭学習見本の掲示
- ・定期テスト前「家庭学習強化週間：スタディーカップ」の取り組み
- ・先輩方からの「勉強の仕方アドバイス」の掲示

③中高生向けビジネス手帳「フォーサイト」を活用した学習計画・実践・振り返りの習慣化

④夏休み補充的学習の実施

(3) 学習規律の徹底

①「号令のかけ方」研修（生徒会中央委員会）

②生徒会呼びかけによる「UPDATE 会議（学級討議）」の実施（全学年全学級）

(4) 図書館教育の充実

学びの場としての図書館環境

- ・各教科との連携（教科の資料・蔵書の工夫）
- ・授業と関連づけた掲示物

3 説明資料

一人一公開授業

3 本時の展開

☆主に意識する生徒指導の4つのポイント(2の項目が○をつける 複数可)

①自己存在の感受 ②仲間関係の育成 ③自己決定の場の提供 ④安心・安全な風土の醸成

①導入(10分)

導入問題 元にする量と割合を使って、比べられる量の求め方を確認

問題解決 本時の問題を確認、前時までの学習との違いや、既習事項が使えないか考える。

めあてをたてる 『割合の問題について考えよう』

②展開(20分)

問題 文章から、定価と割引額についての式、定価と割引後の代金についての式のいくつかのパターンで式ができることを確認する。

③まとめ(10分)

『割合の問題は、元の数についての式と、増加した量や減少した量についての式を作って連立方程式にして考えるよ!』

④練習問題(15分)

⑤振り返り(5分)・・・自己評価表の記入

4 板書・レイアウト等

思考を促す発問の工夫
関係を表にまとめるように
伝える。

考えを共有する時間や場面
の工夫
近くのひとと相談しながら立
式する。

自己評価表

授業日(令和6年) 月 日 日 曜日 時間

教 科() 単元() 中核的() 授業者() 氏名()

評価	◎よくできている	○できている	△あまりできていない
学習態度	・主体的に授業に参加し、発言や質問は積極的に行っているか。	・学習態度(学習意欲、学習態度、授業態度)は充実しているか。	◎
タイムマネジメント	・授業時間(学習時間)は適切に経過しているか。	・授業時間(学習時間)は適切に経過しているか。	◎
めあて	・身に付けてほしい内容を履修できたか。	・「めあて」の達成・振り返りができたか。	◎
振り返り	・「めあて」に照らし合わせて振り返りができたか。	・「めあて」に照らし合わせて振り返りができたか。	◎
説明	・学習のねらいに照らし、説明が適切に行われていたか。	・説明が適切に行われていたか。	◎
思考力・判断力・表現力等	・課題について自分自身の考えをもつ時間・場は確保できたか。	・学習のねらいの達成に向けた思考・判断・表現ができたか。	◎
評価・改善	・授業の展開に基き評価(授業全体の学習状況の把握)はできたか。	・授業の展開に基き評価(授業全体の学習状況の把握)はできたか。	◎
板書	・授業の展開に基き評価(授業全体の学習状況の把握)はできたか。	・授業の展開に基き評価(授業全体の学習状況の把握)はできたか。	◎
ノート	・授業の展開に基き評価(授業全体の学習状況の把握)はできたか。	・授業の展開に基き評価(授業全体の学習状況の把握)はできたか。	◎
校内研修	・授業の展開に基き評価(授業全体の学習状況の把握)はできたか。	・授業の展開に基き評価(授業全体の学習状況の把握)はできたか。	◎
授業を終えて(授業改善の視点)	・授業の展開に基き評価(授業全体の学習状況の把握)はできたか。	・授業の展開に基き評価(授業全体の学習状況の把握)はできたか。	◎



授業プランシートには、主に意識する「生徒指導の4つのポイント」を記載する。
授業後は観覧者とリフレクションを行い、その後「自己評価表」を作成し、次の指導に繋げる。

【公開授業②】2年 社会 照屋 美里 教諭

単元名:第3章 日本の諸地域 第5節「関東地方」

授業参観コメント

○視点をしぼることで生徒が意欲的にグループ活動に取り組んでいた。

○教科会が効率的に機能していて、指導案が丁寧な考えられていた。

○生徒指導の4つのポイントが生かされた支持的風土が醸成されている。

○ICT活用に積極的にチャレンジし、他教科教諭への波及が期待できる。

●単元を貫く問いの設定の仕方について。

●より多くの生徒への声かけの仕方について
(意図的な机間指導による下位層への手立て)



教科総合訪問(指導主事招聘授業)の様子

学年名	授業者	(教科)「単元名」	授業場所	研究会場
1年1組	上地竜馬	体育「空手」	体育館	1年1組へ
1年2組	中村健智	体育「空手」	体育館	1年1組へ
1年3組	我部雅也	国語「聞き上手になろう」	1年3組	2年2組へ
1年4組	上原 愛	数学「比例・反比例」	1年4組	1年4組
1年7組(情緒)	宜保博哉	社会「南アメリカ州」	1年7組	1年7組
2年1組	平田より	英語「Program4 High-Tech Nature」	2年1組	2年1組
2年2組	小串千夏	国語「モアイは語る一地球の未来」	2年2組	2年2組
2年3組	久志奈美子	数学「1次関数の利用」	2年3組	1年4組へ
2年4組	前田紫	美術「鑑賞、形に込めた思い」	美術室	美術室
6組(知的)	渡口尚子	数学「連立方程式」「文字式」	6組	6組
3年1組	玉城匡人	音楽「合唱コンクール取り組み自由曲:仮歌の唄 音取り」	音楽室	音楽室
3年2組	大田守俊	社会「現代の民主政治」	3年2組	3年2組
3年3組	砂川直人	理科「運動とエネルギー」	第2理科室	第2理科室
3年4組	山城隆成	技術「計測・制御」	3年4組	3年4組

幼小中連携授業では9教科の授業を公開。それぞれの研究会で今後の小中の取り組みを確認した。

ICT(1人1台端末)を活用した授業実践



端末を使った協働的な学び

ロイロノートによる作品

朝のスキマ時間を使ったタイピング練習

指導と評価の一体化



夏休みの校内研修の様子
講師を招聘し、評価についての学習会を実施

英語 個人成績表					
第2テスト					
得点	学年平均	学期平均	学年順位	偏差値	
26点	19.9点	18.8点	30 / 100位	55	
大問別得意点					
大問番号	1	2	3	4	5
あなたの得意点(%)	100	50	0	100	25
学年平均	78	35	28	54	9
偏差値	37	41			
小問別得意点					
小問番号	1	2	3	4	5
あなたの得意点(%)	100	100	100	100	100
学年平均	78	35	28	54	9
偏差値	37	41			



年間カリキュラムを見直し振り返る写真の記録

家庭学習の習慣化と質の向上



学習委員による毎朝の家庭学習帳
提出状況チェック

第2回 STUDY CUP

～家庭学習を制する者は
定期テストを制する～
(定期テストⅡ 11月18日～20日)

点検日: 1・2年 11月11日(月)～15日(金) 5日間
3年 11月12日(水)～15日(金) 3日間
1日2ページ取り読みしよう。(プリント、問題集 OK) 生徒会学習委員会

第1回 STUDY CUP 集計結果									
1年1組	15	25	25	26	27	27	100	2	
1年2組	25	29	27	23	26	100	27	100	
1年3組	25	25	29	26	27	96	92	96	0
1年4組	25	25	29	26	27	96	92	96	0
1年5組	25	25	29	26	27	96	92	96	0
1年6組	25	25	29	26	27	96	92	96	0
1年7組	25	25	29	26	27	96	92	96	0
1年8組	25	25	29	26	27	96	92	96	0
1年9組	25	25	29	26	27	96	92	96	0
1年10組	25	25	29	26	27	96	92	96	0



～先輩方はこんな風に勉強しました～

- ・ワークやプリントの問題を繰り返し覚えるまで解く
- ・教科書で線を引いたところを自分なりにまとめて覚える
- ・漢字ノートの漢字を別のノートにも書く

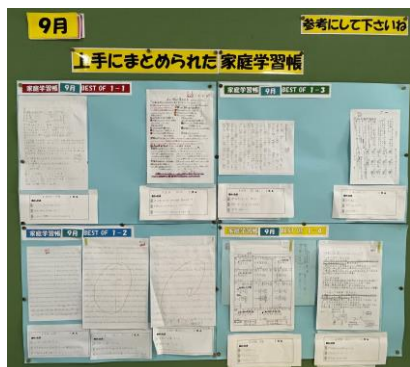


～先輩方からのアドバイス～

- ・分からないところにフセンをつけ先生に解き方聞く
- ・テスト一週間前は遊び一切なしで勉強
- ・「書く」「声に出す」ことを意識することで効率よく暗記
- ・自分の得意な教科を見つけてそれをまず伸ばす



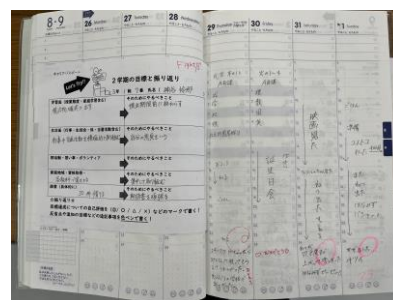
定期テスト1週間前を家庭学習強化週間とし、提出状況を玄関前に記録する。
結果は、お昼の校内放送で毎日報告し、最も提出状況の良かった学級を生徒会朝会で表彰する。また、先輩からの勉強の仕方へのアドバイスも掲示し、学習の手助けを行った。



上手にまとめられた家庭学習帳の掲示



登校後はすぐにフォーサイトを
開き、昨日の振り返りと今日の
予定を記入する。



キャリアパスポート「学期の目標と振り返り」
と同じものをフォーサイトにも貼り付け、い
つでも目標を確認できるようにする。

「夏休み補充学習」について

- 1 目的 (1) 学習の達成に課題のある生徒に、基礎的な知識・技能を身につけてさせる。
(2) これまでの学習の遅れを取り戻し、2学期以降の学習に繋げる。

2 日時 7月25日(木)、26日(金)、31日(水)

校時	時間	1年	2年	3年
1校時	8:40 ~ 9:30	英語	国語	数学(基礎) 数学(発展)
2校時	9:40 ~ 10:30	国語	数学	英語(基礎) 英語(発展)
3校時	10:40 ~ 11:30	数学	英語	国語
4校時	11:40 ~ 12:30		理科・社会・美術	

3 対象者

	1年	2年	3年
数学	学習の達成に課題のある生徒	全国学力学習状況調査正答率30%未満、希望者	
英語		1学期成績C段階生徒、希望者	
国語		学習の達成に課題のある生徒、希望者	
理科 社会	希望者		

4 方法

- (1) 全職員体制で実施する。
(2) 補習に当たらない教科の職員は、3年の数学・英語のいずれかの応援にあたる。
(3) 3年の数学・英語は、2~3人程度のグループをつくり、1グループ1人の職員で対応する。

5 その他

各教科とも、7月5日(金)までに名簿をまとめ、7月12日(金)までに担任、生徒へ通知する。

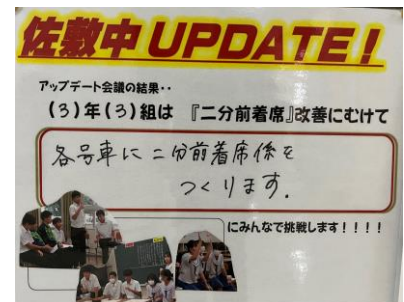


夏休み期間中の補習は、3学年とも3日間を設定し、全職員体制で指導にあたった。

学習規律の徹底



年度始めに中央委員会で行った「号令のかけ方」研修
級長は授業開始2分前には教室の前に立ち、入室、着席の呼びかけを行う。
チャイムと同時に「立腰」「黙想」の号令



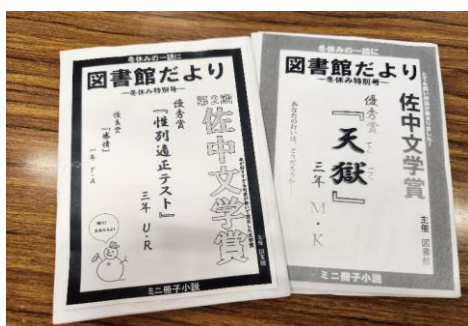
「佐敷中を UPDATE」のテーマの元、生徒会の呼びかけで、佐敷中の課題についてのアンケートを実施。
課題として挙がった「2分前着席ができていない」の解決に向けた学級討議を全学級で行い、各学級で
「学級トライ」を決定する。

学びの場としての図書館教育の充実



沖縄戦だけではなく、世界の戦争や今現在起こっているウクライナや台湾有事などについての掲示物をはりだした。道徳の授業で全学年図書館を利用し、平和学習を行った。

美術科と協力し、図書館で美術部の作品約60点を展示し、1か月美術部の展覧会を行った。美術の鑑賞の授業としても使われた。



文学賞を行っている。審査は図書委員と国語科の先生方。優秀作品は年末の図書館だより特別号にて掲載し、冬休みの読書の入口として配布している。

(4) 成果

- ・一人一公開授業において、授業前の指導案の練り合い、授業後のリフレクション、自己評価表の作成を通して、教師の指導力の向上と授業改善が図られた。
- ・授業ではICTが効果的に活用され、生徒は1人1台端末を使って活発に授業に参加している。教師主導型から子供主体型への授業改善が進み、個別最適な学びへと繋がっている。
- ・生徒会の取組により、生徒自ら課題を見つけ、課題を自覚したことで、2分前着席や授業中の学習規律が整い、落ち着いて学習に向き合うことができている。

(5) 課題

- ・沖縄県児童生徒質問紙調査より

質問(4)「授業では、課題の解決に向けて、粘り強く最後まで取り組んでいる」の「あてはまる」に回答した生徒の割合が、31.3% (6月調査) から23.9% (11月調査) へ減少した。授業内に自力解決の時間を設け、わからない生徒には調べ方・考え方等の解決方法を示すなど、主体的に根気強く課題解決に向かうための「学び方」を支援する。

質問(9)「家で自分で計画を立てて勉強をしている」では17.7% (6月調査) から11.3% (11月調査) と減少した。引き続きフォーサイトを活用し、計画・実行・振り返りの学習サイクルを確立し、宿題型家庭学習と自主型家庭学習を併用し、家庭学習の習慣化を図る取り組みを継続する。

学校名 南城市立玉城中学校	連絡先 : 098-948-7105 Eメール : tamachu-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp
-------------------------	--

1 実践事項

「特色ある取組」

タイトル「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」

～ICTを活用した「分かる授業の実践」～

本校の学校教育目標「自ら学び自ら考え 心豊かに実践する たくましい生徒」

目指す生徒像及び育成を目指す資質・能力

(1)「生きて働く知識・技能を身につけた生徒」

- ・人の話を聴く力
- ・他者を理解し尊重する力
- ・学んだ知識・技能を構造化し関連づける力

(2)「習得した知識・技能を活用できる生徒」

- ・他者とよりよく対話する力
- ・論理的な思考力
- ・最適解を見いだし活用する力

(3)「社会に貢献できる生徒」

- ・先を見通し、粘り強く取り組む力
- ・探究心、向上心
- ・他者と協力して課題解決しようとする力

2 実践内容

(1)凡事徹底（時を守り、場を清め、礼を正す）

- ・集会等の集合を生徒会各種委員会（生活委員会）が、前に立ち号令や指示をだしている。
- ・集会前、授業前に「2分前入室」「1分前黙想」を行い落ち着いて授業を開始し集中力を高める。
- ・生徒会の提案で、ノーチャイムの取組を計画・実施を行った。（12月2日～12月6日）
- ・外部講師を招いて講演会を行った。（生きる力・マナー講習・助産師の講話・SNSトラブル防止）

(2)授業改善・授業力向上

- ・教科会の日常時間割に位置づけた。
- ・校外、校内研修と教科会、学年会を連動させ、目指す授業像の共有を行う。
- ・1人1公開授業及び研究授業参観を徹底した。
- ・ICTを活用した授業展開や工夫が行えるよう適宜ICT研修を実施した。
- ・「全国学調」「標準学力調査」「学びの確かめ」を分析し、本校の課題を共有して課題解決に向けて取り組んだ。
- ・小中合同研修会（公開授業）を実施し、中学校の授業を参観して小学校の先生方と授業反省会を実施した。
- ・コグトレオンラインを導入し、特別支援の自主活動や通級指導に活用した。

(3)主体的に取り組む態度を育てる

- ・ フォーサイトアプリデジタルを導入し、生徒に毎日の振り返りと担任の先生とコミュニケーションツールとして活用した。また、定期テスト前の学習計画をアプリを活用して立てる取組を行った。
- ・ 令和4年度まで行っていた家庭学習を取りやめ、自ら学習に取り組めるよう授業と家庭学習を連動して行えるよう指導した。
- ・ タブレットドリルLIVE（数学・理科）を導入して、クロムブックを活用して主体的に学習する環境を整えた。また、長期休業時の課題や基礎基本の定着に向けた取組を行った。
- ・ 生徒の自治活動の推進(生徒会活動)し、行事の取組や校則等の見直しを検討した。

(4)対話的で深い学びの実現に向けた取組

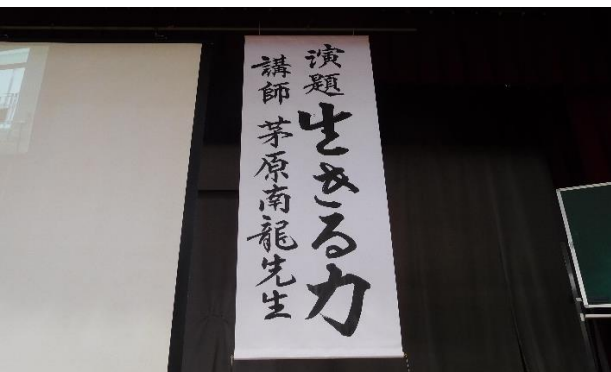
- ・ ロイロノートを活用し、生徒同士の意見を共有し、自らの考え方を振り返る機会が増えた。
- ・ 発問の内容を工夫することで、講義型の授業から対話型の授業へ転換を図った。
- ・ グループ学習で、1人1人に役割を与えることで、対話や意見交換が活発になった。

(5)地域人材の活用

- ・ 地域人材「ミントウンの会」を活用し、個別に学習支援を行った。
- ・ 夏休みの補充学習で、大学生や地域人材を活用して生徒の学習支援を行った。
- ・ 玉中読み聞かせボランティア「ぬちぬたからももと」による読み聞かせの実施。
- ・ 地域コーディネーターと連携して平和学習の講師や職場体験学習の事業所の開拓、受入調整等を行った。

3 説明資料

(1)凡事徹底

	
黙想の様子	マナー講習会
	
講演会（茅原南龍）「生きる力」	生徒作の題字



茅原南龍先生の実演



完成した作品「智徳體」



SNS トラブル防止講演会



SNS トラブル防止講演会（生徒による運営）



平和学習（ひめゆり資料館における講話）



助産師の講話

学校生活の中や外部講師を招いて講話を行う中で、時間を守る大切さや、人の話を聞く姿勢、人の気持ちを大切にする、命を大切にする気持ちなど学ぶ機会を多く持つことができた。

（２）授業改善・授業力向上



公開授業（体育）マット運動



公開授業（社会）



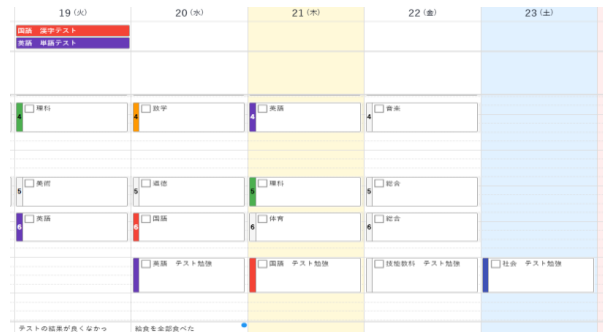
公開授業（英語）



公開授業（数学）



(3)主体的に取り組む態度を育てる



フォーサイトデジタルで毎日の振り返りと担任からの返答を行っている。(資料左)

フォーサイトデジタルで家庭学習の計画を立てて取り組んでいる。(資料右)

(4)対話的で深い学びの実現に向けた取組



ロイロノートで提出された作品を共有し、自分自身の作品と比較・改善に繋げた。(美術)

生徒役員が各グループの意見を集約している様子。
(特活)

(5) 地域人材の活用



読み聞かせ（読み聞かせボランティア）



学習支援（ミントウンの会）



夏休み補充学習会（基礎コース）



夏休み補充学習会（課題学習コース）

4 成果

- (1) 凡事徹底するために、黙想や集会時の役割分担など教職員で共通確認を行い実施できた。
- (2) 生徒が安心して学校生活を過ごせるために外部講師を招いて、様々な講演会が実施できた。時に、保護者対象に SNS トラブル防止講演会を開催できた。
- (3) 教科会で 1 人 1 授業に向けて取り組み、授業力向上に推進できた。また、フィードバックを通して改善点や課題を共有することができた。
- (4) アプリの導入により、多くの生徒の振り返りを通して、対話することができた。また、夏休みの課題をアプリで行い、生徒の基礎基本の定着を図ることができた。
- (5) 昨年に引き続き、ミントウンの会の協力のもと数学、英語の学習支援を実施できた。生徒も「分かるようになった」と意欲的な意見が見られる。

5 課題

- (1) アプリは利用料が発生するため、効果や頻度等で精査しなければならない。また、これまで紙媒体で行っていた課題等を削減してしていく必要がある。
- (2) ICT を活用した分かる授業の実践を行っているが、まだ、教師の説明や指導の時間が長く、生徒が主体的に学習する時間が少ない。一斉授業の場面を減らす授業改善を推進する必要がある。
- (3) 主体的に学習する生徒が少ないため、家庭学習の時間が少ない。アプリを活用して振り返りを行っているが、学習計画を行い家庭学習を主体的に取り組めるような取り組みを推進したい。
- (4) 地域人材の活用において、日常的に活用を行っているが、急な変更に対応が難しく、ボランティアと連携が困難になることがあった。

学校名 南城市立知念中学校	連絡先 TEL : 098-948-1303 E メール : chichu-kyoutou@du.city.nanjo.okinawa.jp
------------------	---

1 実践事項 ①地域・小中連携

タイトル：「地域教育資源の活用・小中連携における交流活動」

(1) 地域教育資源の活用 (2) 小中連携における交流活動

2 実践内容

(1) 地域教育資源の活用

総合学習における探究活動

これまでの総合的な学習の時間を見直し、生徒が主体的に自身の課題を解決する探究的学習とプロジェクト探究で興味あるものをとことん追求する深い学びの実現を目指した。また、キャリア教育の視点を踏まえ、子どもたちに必要とされる資質・能力を育むため、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を構築することで、生徒一人一人に地域を誇りに思う心を育て、夢や希望を持たせ、学ぶ意欲の向上を図った。

① 【1年総合学習ハッピープロジェクト】

・「知念地域のお年寄りや子供たちをハッピーにする」ことを目的に、知念こども園、知念小学校、しらゆりの園の3施設で実施。各施設の特質や現状、何が喜ばれるのかをインタビューを元に検証した。その後実践内容についてグループで話し合い、11月に1回目の実践を行った。そこで得た気づきや課題を元に再度計画を練り直し、2回目の実践に活かすことができた。

② 【2年総合学習ハッピートラベル】

・南城市の観光課題を自分たちで考え、グループで課題解決方法を話し合った。その中で出たアイデアで、新しい「ツアープラン」を提示したり、南城市産の食材を使ったお土産品を考案した。また、がんじゅー駅やおきなわワールドへ行き、自分たちが考えたプランを観光客や地元の人に紹介し、アンケートをとり、課題解決方法を練り直すことができた。

③ 【総合学習におけるPBL・プロジェクト探求（3学年）】

・3学年総合学習において、市商工会と知念の特産物を使用した商品開発プロジェクトを行った。どうしたら魅力ある商品になり、多くの人に買ってもらえるかなど、味やパッケージについても企業と生徒が話し合いを重ねた。また多くの生徒や教師に企業と考案した商品の味見をしてもらい、アンケート調査を行った。2学期にはトビイカを使用したせんべいと久高島の塩を使用したちんすこうが商品化され、「沖縄の産業まつり」や南城市祭りにおいて実際に生徒が販売を行った。

④ 【海野ハーリーへの参加】

・学校行事の一環として全校生徒が地域のハーリー行事に参加し、地元の人たちと交流したりハーリーについての文化を学び、楽しんで体験することができた。事前指導では、生徒のハーリーの練習における安全面の指導やハーリーの漕ぎ方指導などを地域の方が熱心に行ってくれた。

⑤ 【学習支援ボランティア】

- ・毎週水曜日の放課後は「JJ（自学自習の会）」を設けており、図書館に学習したい生徒が集まって自学自習を行っている。夏休みの補習としての「JJ」では3人の地域の方が学習ボランティアとして参加し、生徒の質問や疑問に対して丁寧に対応してくれた。

⑥ 【総合文化発表会における伝統芸能の披露】

- ・「安座真の谷茶目」と「久手堅のマミドーマ」

地域の伝統芸能のひとつであるヌーバレーに携わる生徒達が、その演目を全校生徒及びその保護者関係者に披露した。当日は地域の方が生徒の着付けや演出の手伝いに駆けつけてくれた。三線の地謡（じかた）による臨場感ある歌と演奏のおかげもあり、演目は大盛況となり、地域の伝統芸能の存在やすばらしさを認識することができた。

⑦ 【環境教育の日ワークショップ】

- ・生徒達が自分の住む地域においてゴミが捨てられている箇所をクロムブックで写真を撮り、その問題について地域ごとに生徒達が集まり問題解決に向けて話し合った。また地域ごとの環境問題とその解決策の案をお互いにシェアすることができた。

(2) 小中連携における交流活動

① 【南城市研修の日における授業参観および研究会】

- ・1学期は知念小学校の教諭らが各教科に分かれ中学校の授業を参観し、小学校と中学校の授業改善や実践事項について意見交換をしたり、共通実践について検討したりした。その後、学推担当者同士で話し合いを持ち、アウトプットに重きを置いた「主体的・対話的で深い学び」につながる指導内容の共通実践が決定した。2学期には中学校教諭らが小学校に出向き、授業参観をして授業研究会を行った。これからの授業実践において考察する有意義な交流となった。

② 【小中合同運動祭（知念スポーツ祭）】

- ・小学校と中学校担当で企画をし、運動祭に向けて各部会ごとに児童と生徒が打ち合わせを数回行った。当日の運営は児童生徒が中心となって行い、地域の人たちも巻き込んだスポーツ祭となった。特に全員参加型の大綱引きは大いに盛り上がり、児童生徒、ならびに保護者同士の交流を深めるものとなった。

(3) 説明資料（写真、グラフ、図、表など）

(1) 地域教育資源の活用

① 1年総合学習ハッピープロジェクト



② 2年総合学習ハッピートラベル



③ 3年 総合学習 PBL プロジェクト探究



④ 海野ハーリー



⑤ 学習支援ボランティア



⑥総合文化発表会における地域の伝統芸能



⑦環境の日ワークショップ



(2) 小中連携における交流活動

①南城市研修の日における授業参観・研究会

・中学校での授業参観（４月）



・小学校での授業参観（１０月）



②小中合同運動会（知念スポーツ祭）





4 成果

- ・さまざまな地域教育資源を活用し、生徒が地元の文化や伝統芸能に親しみ、学び、経験することができた。また、さまざまな課題を身近なものとしてとらえ、自分たちの地域や伝統を守ろうとする態度が育った。保護者や地域の方にも学校行事や教育活動に参加してもらうことで、地域と共にある開かれた学校としての交流が深まり、生徒たちを協働して育てる意識を高め、よりよい教育環境を作る機会となった。
- ・小中連携において、4月の中学校での授業参観では本校における共通実践事項を小学校と確認し、板書の仕方や指導の工夫、生徒の実態や課題などについて話し合った。10月の小学校での授業参観においては、小中の学推担当同士が前もって話し合い、中学校で行っているアウトプットの実践に重きを置いた授業展開を行うこととなった。小学校の授業参観では、普段から実践して取り組んでいる事項、UDの工夫、学習環境について学び、お互いの課題を認識する機会となった。また小中で連携・継続して取り組むべき方向性が見え、一貫した教育活動を実践していくための手立てを考える有意義な研究会となった。
- ・小中合同運動祭では小中が連携して計画・交流し、地域を巻き込んだ大運動祭となった。この一大イベントにより、小中の教師や児童生徒たちが力を合わせ、行事を運営し、連帯感や達成感を味わうことができた。保護者や地域の人々も運営に携わり、種目に参加することで、連帯感はもちろん、学校教育活動への相互理解や共感を深めることのできる充実した行事となった。

【南城市の目指すコミュニティ・スクールとしての観点より】

- 地域とともにある学校への転換：開かれた学校から一歩踏み出し、地域の人々と本校の目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」への転換へとつながる教育活動の実践を行うことができた。
- 子供も大人も学び合い育ち合う教育体制の構築：地域の様々な機関や団体等がネットワーク化を図りながら、学校、家庭及び地域が相互に協力し、地域全体で学びを展開していく「子供も大人も学び合い育ち合う教育体制」の構築を図ることができた。
- 学校を核とした地域づくりの推進：学校を核とした協働の教育活動を通じて、地域の将来を担う人材を育成し、自立した地域社会の基盤の構築を図る「学校を核とした地域づくり」を展開することができた。

5 課題

- ・海野ハーリーは、一地域の伝統であるので、生徒たちがその他の地域の伝統行事にも触れられる機会を作っていきたい。
- ・3学年の総合におけるPBLは、企業に案を提示したり商品を外部のイベントで販売したりなど、3年生の行事が重なる中で行っていたので、生徒たちが多忙を極めていた。学校行事との兼ね合いを学校側が次年度検討していきたい。
- ・毎週水曜日の放課後自学自習（J.J）の時間を設け、学習支援ボランティアを地域の方に募集しているが、なかなか集まらないので教師がローテーションで見守りを行っている。
- ・小中合同運動祭の取り組みは、多忙な中で計画と打ち合わせを重ね、生徒と児童の交流は深まったが、日々の業務をこなす中での取り組みは、職員と生徒の負担がとても大きかった。成果も大きかったが、今後は負担を軽減するような取り組みを模索中である。

団体名 南城市立久高中学校	連絡先 TEL : 098-948-3515 Eメール:kudaka-kyoto@edu.city.nanjo.okinawa.jp
-------------------------	---

1 実践事項（今年度の実践）

「人との関わりの中で 学びを深めよう！」

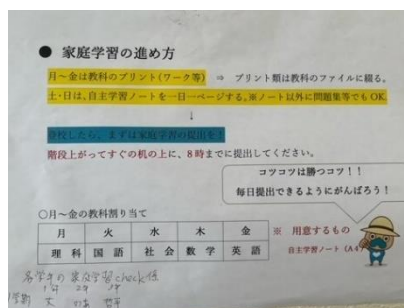
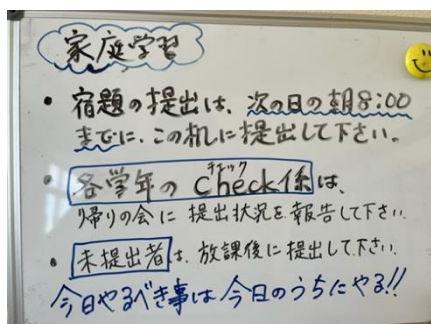
2 実践内容

(1) 自立した学習者の育成

①フォーサイトの活用

②家庭学習コーナーの設置（掲示・チェック表）

廊下の長テーブル上に家庭学習コーナーを作り、ホワイトボードや掲示物、チェック系の生徒が使用するチェック表を置き、日々家庭学習への意識付けをする。



③学力向上強化月間の実施

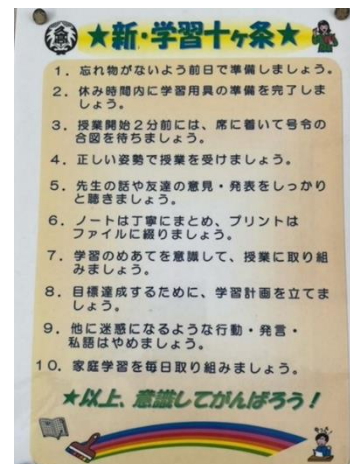
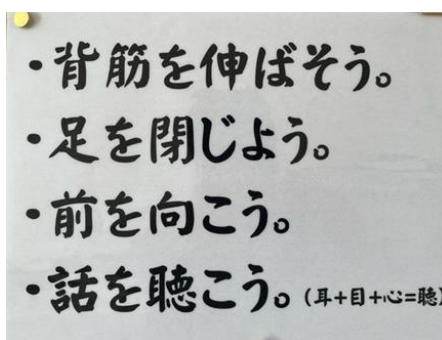
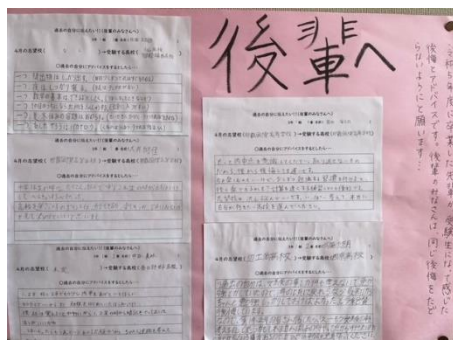
④夏休み学習会の実施

南城市の地域コーディネーターと連携し、学生ボランティアを活用した夏休み学習会を実施。（強制ではなく、自主的な参加）

⑤学校生活への心構えを示す掲示物

卒業した先輩から後輩へのメッセージを掲示し

「提出物は必ず出す!」「中2の時から受験を意識して勉強するべきだった。」「その日のうちに習った所を復習する!」「1年の頃に戻れるなら、最初から勉強をしっかりしておけばよかったと後悔しています。」「今を楽しむのもいいけど、勉強をする習慣を付けると後で楽」等、説得力がある言葉がな



(2) 対話を重視した授業づくり

小中合同で道徳の校内研究に取り組み、理論研や一人一研により、生徒が主体的に学習に取り組む「対話を取り入れた協働的な学習」の授業改善に努めている。



(3) 外部講師（地域人材）等の活用

教科や総合的な学習、学校行事等で様々な地域の方や外部の方と触れ合い、職業観の育成ややりたい自分に向かうキャリア形成に繋げている。

3 説明資料（写真、グラフ、図、表など）

外部講師を活用した学習の様子

<租税教室>



<マナー講座>



<PBL 学習で計画したハンドメイド会の実施>



<PBL 学習：バス会社訪問>



<PBL 学習報告会 作成したTシャツを披露>



<地域人材の活用：魚のさばき方>



<地域人材の活用：追い込み漁>



<地域人材の活用：戦争体験者から平和を学ぶ>



4 成果

- (1) 主体的に学習に取り組むことができるよう、場の設定や時間の設定（家庭学習コーナー、夏休み学習会等）を行ったことで、生徒が自らの意思で計画的に学習する様子が見られた。
- (2) 授業や行事等の中で、生徒同士の対話を意図的に組み込んだ指導方法や、地域・企業・ボランティア・外部講師の方々等と触れ合うことで、多面的に物事を捉えたり、専門的な知識を得たりすることができた。

5 課題

- (1) 主体的に学習に取り組む様子やフォーサイトノートの活用に個人差が大きいため、フォーサイトアプリの導入や活用法の指導について検討していく。
- (2) 学校と家庭・留学センターが家庭学習の方法や内容について共通理解し、連携を図る必要がある。

学校名 南城市立船越小学校	連絡先 TEL: 098-949-7108 E メール: funasho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp
-------------------------	---

1. 研究テーマ

－運動の楽しさを味わい、自己や集団の課題に進んで取り組む児童の育成－
～自己決定の場や対話的な活動を取り入れた体育学習を通して～

2. テーマ設定の理由

AIなどの新しい技術の急速な発達による社会の変化、世界各地で起きている異常気象や自然災害等、先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態、VUCA時代を迎えている。このような時代において、学校教育では、変化の激しい社会を子ども達が生きていくために必要な資質・能力の育成が求められている。

『小学校学習指導要領解説体育編』（平成29年告示、以下『解説体育編』）では、「豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、『知識・技能』『思考力・判断力・表現力等』、『学びに向かう力・人間性等』を育成することを目標として示す」としている。また、これらの資質・能力を育成するためには、「運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決するなどの学習が重要である」と示されている。体育の学習において、運動の楽しさや喜びを味わう中で、自己や集団の課題を見付け、その解決に向けて取り組む学習過程を通して、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することが重要だと考える。

本校では、沖縄県教育委員会より令和4年度から3年間「体育・スポーツ推進校」として指定を受け、体育の研究を行っている。令和4年度は器械運動領域、令和5年度からは器械運動領域に加えて、ゲーム・ボール運動領域、保健領域の指導の在り方について研究を進めている。これまでの取り組みとして、「運動の特性を踏まえた授業づくり」「自己決定の機会の設定（用具やルールを選択、課題や場の選択など）」「対話的な活動の工夫（分析カード及び思考ツールの活用）」を行ってきた。その結果、運動に意欲的に取り組む児童、個や集団の課題に向けて何度も挑戦している児童の姿が見られるようになった。一方、自身で考えたことや意見、発見したことや気付いたことなどを他者に伝える場面になると、消極になる児童の姿があり、表現するための支援が課題である。また、第5学年を対象に実施された令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、「体育の授業はあまり楽しくない・楽しくない」と男子5%、女子7%の児童が回答している。第2学年から第6学年対象に実施した校内アンケートでは、10%の児童が体育の学習が好きではないと回答をしている。体育に対して否定的な思いを持っている児童に対しての支援も重要な課題だと考える。

これらの実態から、最終年次の本研究においても引き続き、運動の特性を踏まえた授業づくりを進め、運動がもつ面白さや価値に児童が気付くことができるようにする。自己決定の機会の設定及び対話的な活動についても更なる改善を図り、児童の運動意欲の向上及び主体的な学習を促していく。また、運動が苦手、体育が嫌いな児童でも安心して学習に取り組むことができるように、授業中における肯定的な言葉かけや態度を価値付け、学習環境を整える。さらに、児童の小さな成長を見取り、称賛することで自己肯定感を高めていく。

そうすることで、児童が運動の楽しさを味わい、自己や集団の課題に進んで取り組むことができると考え、本テーマを設定した。

3. 研究仮説

体育の学習において、自己決定の場面を設定し対話的な活動を工夫することで、運動の楽しさを味わい、自己や集団の課題に進んで取り組む力を育むことができるであろう。

4. 研究主題について

(1) 運動の楽しさを味わうとは

杉原（2014）は「運動には様々な楽しさがあり、そのうち、内発的動機づけが満足される楽しさだけが遊びの楽しさということになる。」と述べている。つまり、自分自身の内側から湧き上がる興味・関心や向上心がきっかけとなり、「やってみたい!」という運動や遊びの中でこそ、本当の楽しさを味わうことができると考える。また、白旗（2020・2019）は「体育の授業では、子どもを運動の特性にふれさせることで、喜びや楽しさを味わうことができるようにすることが大切」「特性に触れる楽しさを重視した導入の工夫が主体性（意欲）に大きく影響する」と述べている。このことから、各種の運動の特性をとらえ、その特性に応じた楽しさや喜びを児童に触れさせることで、児童が運動の楽しさを味わい、運動に意欲的に取り組むことができると考える。そこで、本研究では、運動の楽しさを児童が味わえるように、運動の特性（図1）をきちんと捉え、授業づくりを行っていく。その際、児童から見た運動の特性（プラス面・マイナス面）も捉えながら、運動が苦手な児童や運動に意欲的ではない児童への配慮を行い、すべての児童が安心して楽しく学べる体育の授業を目指す。

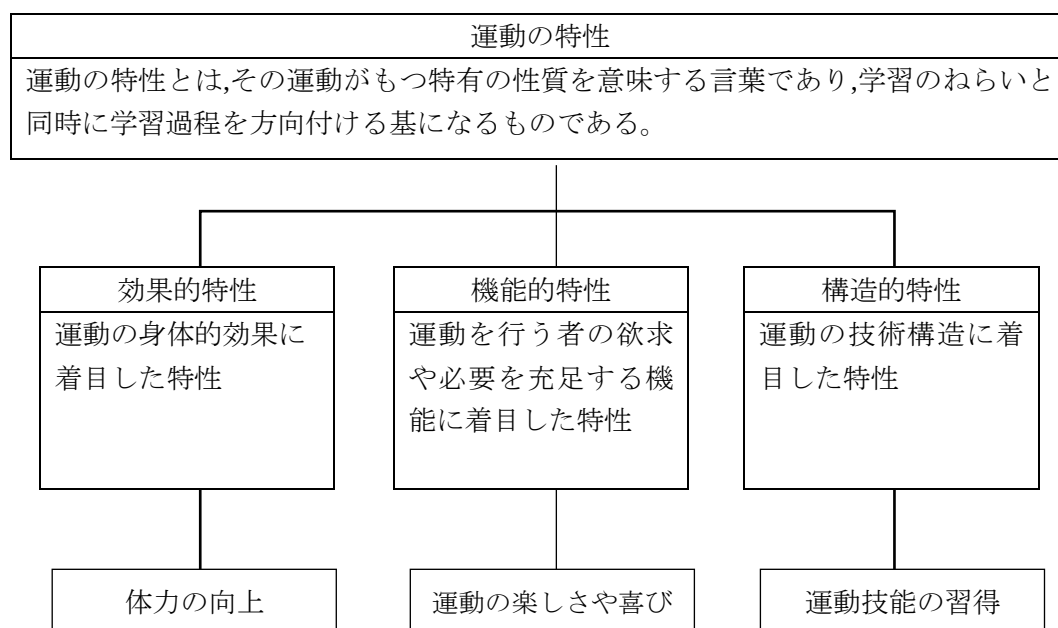


図1 3つの運動の特性

(2) 自己や集団の課題に進んで取り組む児童の姿とは

中央教育審議会答申（平成28年6月）では「習得した知識及び技能を活用して課題解決すること」や「健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習」に課題があることが示されている。令和5年に2年生～6年生を対象に実施した体育の授業に関するアンケートでは、9割以上の児童が自分やチームの課題を見つけることができると回答している。また、同じく9割以上の児童が「最後まであきらめずに運動に取り組むことができる」「（課題解決に向けて）チームで練習を選んだり作戦を考えたりすることができる」と肯定的に回答をしている。しかし、このアンケート結果からいくつかの問題が浮かび上がった。一つ目は、児童が見つけた課題が自身やチームの実態に合っていないこと、二つ目は、児童自身が選んだ課題の正当性や理由を十分に説明できないこと、三つ目は、課題解決の方法について集団で検討することが難しい点である。

本校の学校評価全体計画の重点目標でもある「目的意識を持ち、様々な人と協働し、課題解決ができる児童」を育成するためには、児童がより実態に即した課題を設定し、その根拠を明確に説明すること、また集団で課題解決の方法を考えることを通して、多様な視点から物事を捉えることが重要だと考える。そこで本研究では、児童が個や集団の実態に即した課題を設定し、その根拠を説明できるように、課題分析シートや思考可視化ツール（ホワイトボードやアプリ）を活用する。また、以下の2つの学習サイクルのプロセス（図2）（図3）を通じて、課題解決の学習を進めていく。

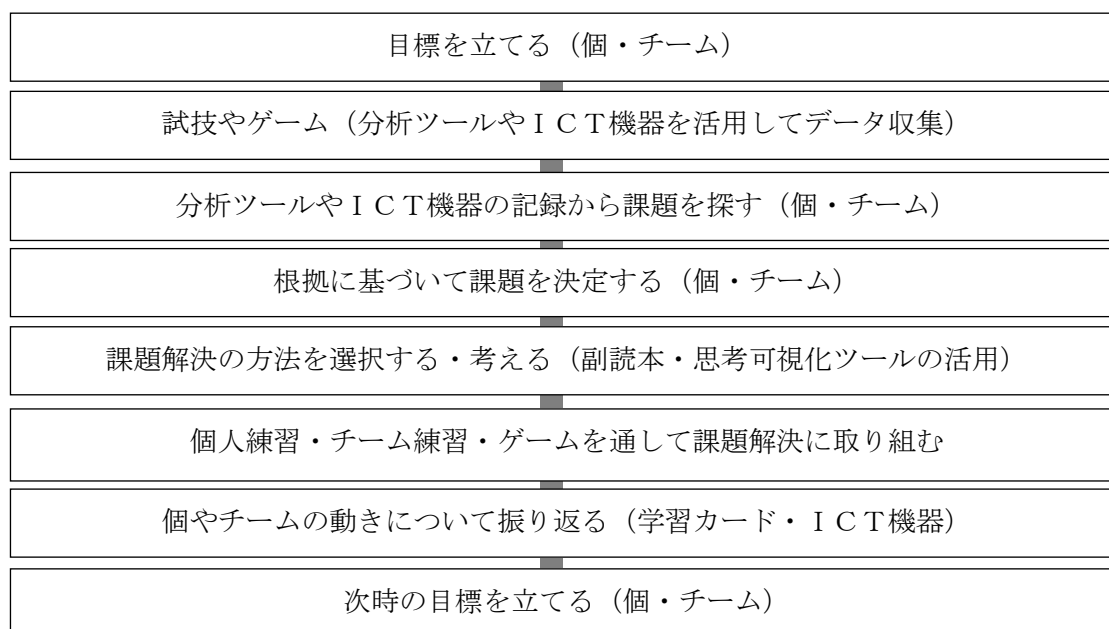


図2 課題分析型の学習サイクル

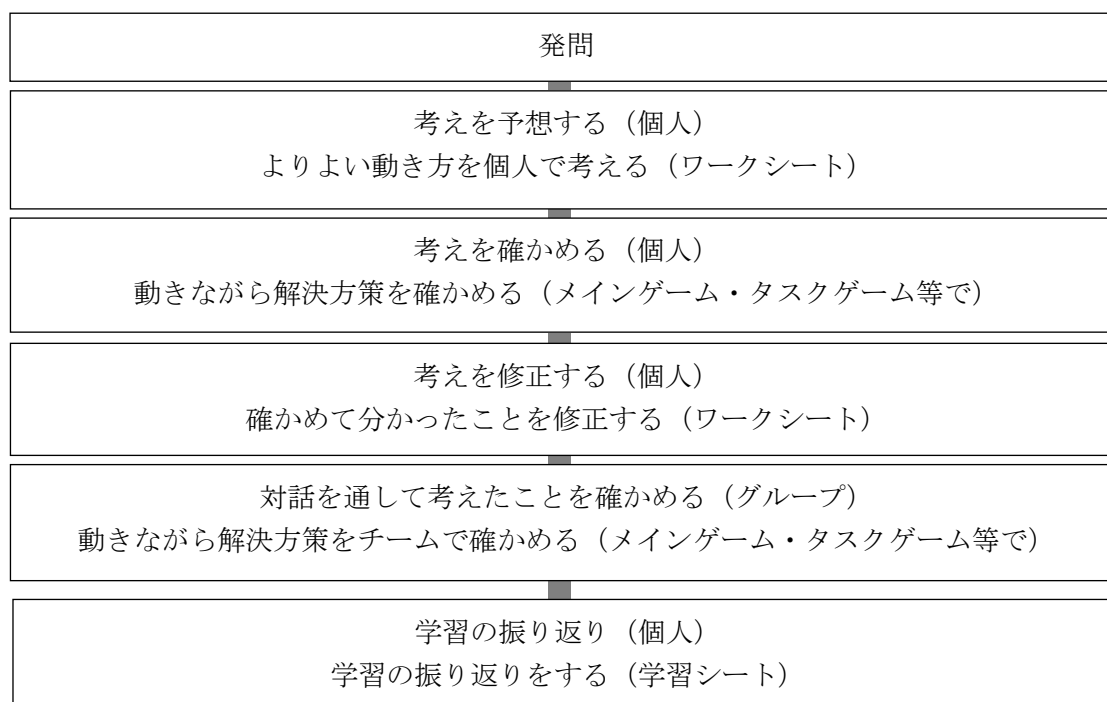


図3 仮説検証型の学習サイクル

また、本研究を通して、児童の変容を掴むため、課題解決に取り組む児童の姿を（表１）のように捉えることとする。

学年	目指す児童の姿
低学年	運動遊びをする場や練習の仕方などを自らの力に応じて工夫したり、選択したりすることができる。
中学年	自己の運動の課題を見付けることができる。 課題解決に向けて、運動をする場や練習の仕方などを工夫したり、選択したりすることができる。
高学年	自己やグループの運動の課題を見付けることができる。 課題解決に向けて、運動をする場や練習の仕方などを工夫したり、選択したりすることができる。

表１ 目指す児童の姿

５．船越小学校 体育学習の進め方

１ 体育学習で目指すこと

○生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフの実現を目指す。→そのために、身体を動かすことの価値に気付かせ、運動に対する愛好的態度を育む。

２ 指導にあたって（活気ある体育学習にするために）

（１）学習の雰囲気・テンポを作り出す工夫

①教師の指示、言葉がけは明るく短く

→「教師の動き」「表情」「言葉がけ」で雰囲気を作る

②児童に「学習の見通し」をもたせる

→何のための活動？動き？等、「問い」を持たせながら授業を進める

③BGMの活動

→気持ちを高める、リズム、タイムマネジメント

④肯定的な言葉かけ（称賛、承認、励まし）

→その子なりの変容を見つける、価値づけ

（２）体育の服装や見学する児童について

①体育着、赤白帽着用徹底（ユニフォーム）

②「体育着の上着はズボンに入れる」

「帽子はきちんとかぶる」→けがの防止、物を大切にする

役割の視覚化、到達状況の把握

③体育着、赤白帽を忘れたことを理由に見学させることはしない

→学習機会の保障

（ただし、忘れた理由は必ず教師に伝える）

※家庭の事情等による場合は、運動に適した服装でも可とする

※家庭の協力を得られない場合はレンタル



(3) ベル合図の約束

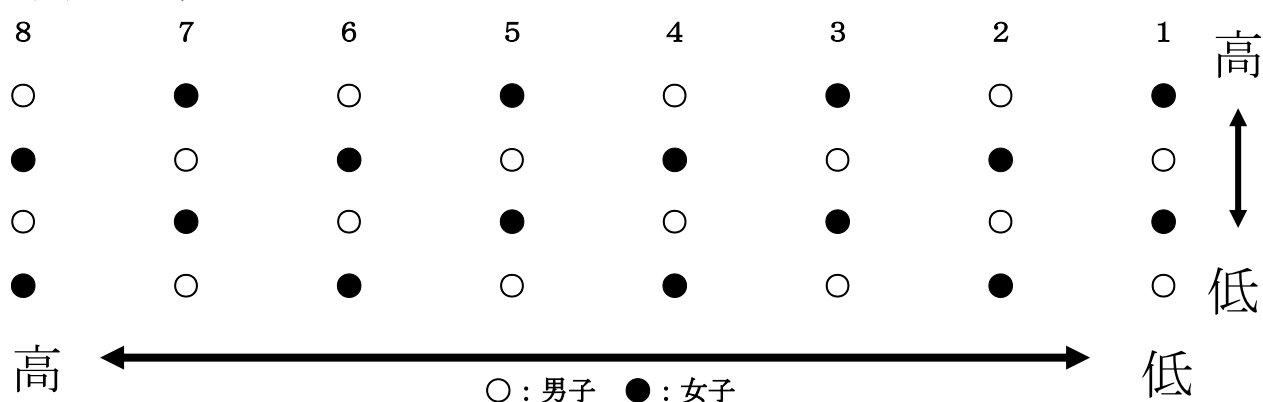
教師用

ピッ！ (1回)
活動の開始

ピピッ！ (2回)
ピピッ！ (3回)
活動をやめ、その場に座って先生に注目し、「はい」の返事をする

ピッピッピッー！
活動をやめ、先生の所へ集合する

(4) 整列の仕方



(5) 1時間の授業の流れ

授業内容
1. サーキット・集合整列・あいさつ 2. 準備運動 3. パワーアップタイム ※運動の特性に応じた基礎感覚づくり 4. めあての確認
5. チャレンジタイムⅠ（活動Ⅰ） ・器械運動、体づくり etc → 基本の技に挑戦 ・ゲーム、陸上運動 etc → 簡易的なゲーム 6. キラリタイム（学びの共有） ・友だちの良いところを認め、友だちの動きや試技から 「動きのポイント」等を共有する時間 ・教師による「つまずきポイント」の共有も OK ※めあて達成のためには不可欠です！ 7. チャレンジタイムⅡ（活動Ⅱ） ・器械運動、体づくり etc → 発展技に挑戦 ・ゲーム、陸上運動 etc → レベルアップしたゲーム

8. 振り返り

- ・めあてを振り返り、自分や友だちの成長したところ、チームで達成したことを発表する
- ・達成できた理由、達成にいたった経験を掘り下げる
- ・友だちやチームとの関わりの中から生まれたことを大切に！

※全体、グループ、ペアを活用し効果的な振り返りを行う

6. 授業の様子

①めあての確認



②感覚作り運動（動物歩き）



③4つの場で跳び箱遊び



④キラリタイムで友だちの動きを観察



⑤パルクール遊び1（舞台に横転がり）



⑥パルクール遊び2（障害物を跳び越えよう）



⑦パルクール遊び3（好きな転がり方で連続回転）



⑧グループで振り返り



7. 令和6年度（12月現在）の成果○と課題▲

（1）教師の視点から

- 単元指導計画（指導と評価の計画）を作成し、各学年間で共有することにより、見通しを持って授業を行うことができた。
- 公開授業及び隣学年研を通して、学習内容の系統性を踏まえた授業づくりについて共有することができた。
- 児童1人ひとりの考えや意見を発言する機会を保障することができた（国語や道徳等で行っている話し合いのスタイルを体育の学習でも活用した）。
- キラリタイムや振り返りの場面において、形式的に児童に発問をするのではなく、めあてに沿った発問や児童の発言に対し問い返しをすることで、本時の学習課題に焦点を当てることができた。
- 運動領域保健領域共に、ICT（Google フォーム、ロイロノート）を活用することで、双方向の学習活動を展開することができた。
- 単元を通して丁寧に児童の変容を見取ることで、児童に対する肯定的なフィードバックや励ましの声かけを積極的に行うことができた。
- 体育での活用をきっかけに他教科でもロイロノートの活用が広がった。

▲「主体的に学習に取り組む態度」をどのように高めていくのか、その手立てが不十分であった。→具体的な児童の姿を共通理解し、その姿を見取り価値づける。

▲ゲーム・ボール運動の領域（主にゴール型）において、チームで成功を体験し、達成感や成就感を得るための工夫が不十分だった。→チームでの役割分担を明確にする。映像からゲームの様子を振り返る機会を設ける。状況判断（特にボールを持たないときの動きやパスを受けてからの動き）をサポートする手立てを行う。

（2）児童の変容から

- ゲームやボール運動の学習において、チームメンバーと協力しながら活動（課題解決のための練習等）を選ぶことができ、意欲的に取り組む姿が見られた。
- 自分の考えや意見を相手に伝えることのできる児童が増えた。また、積極的に話し合い活動に参加する児童の姿が多く見られた。
- 場や用具の準備や片付けを自ら積極的に行う児童が増えた。
- 友だちの良さや友だちの姿に注目し、真似したいポイントを見つける児童が増えた。
- 振り返りの視点を明確にすることで、めあてに沿った振り返りの記述が多くなった。
- ▲ゲーム中、勝負にこだわるあまり、言い争いに発展する場面があった。→単元前半で「みんなで楽しく活動すること」をめあてとした時間を設定し、困った場面などについてきちんと話し合う。兄弟チームの合計得点で競う規則やルールの設定。学級の実態に応じて、得点板をあえて使用しないことを検討し、活動そのものの楽しさに着目させる等。

学校名

南城市立百名小学校

連絡先 TEL: 098-948-1012

Eメール: yakusho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp

1 実践事項

②「特色ある取組」（カリキュラムマネジメント・ICTを活用した事例等）

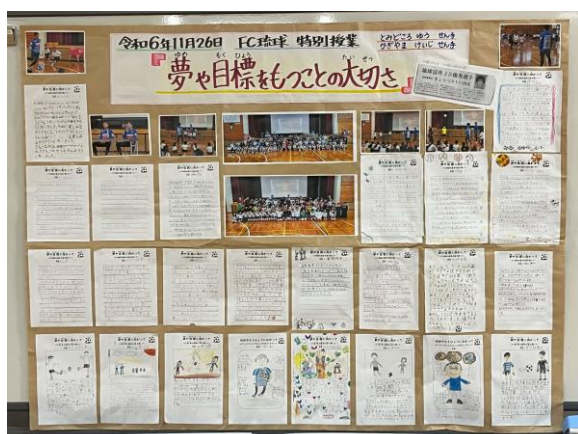
タイトル：「『学ぶこと』の目的意識を育む教育活動の推進」

2 実践内容

本校では、児童一人ひとりが「学ぶこと」の目的意識を育み、自立した学習者へと成長することを目指し、以下の実践を行いました。

- ① 地域人材を活用した講話：地域の方々を招き、児童たちに「夢や目標をもつことの大切さ」を講話していただきました。
- ② ICTを活用した個別学習の強化：児童一人ひとりの学習状況に合わせて、タブレット端末を活用した個別学習に取り組ました。

3 説明資料（写真、グラフ、図、表など）



【講話後の感想】
(児童玄関に掲示し全学年で共有)



【ICT 支援員を活用した授業】
(一人ひとりの ICT スキルに応じた支援)

4 成果

- ・自身の将来について深く考えるきっかけとなり、学習意欲の向上に繋がった。
- ・AIを活用した学習支援システムの導入により、児童は自分のペースで学習を進めることができ、主体的に学習に取り組む姿が見られるようになった。

5 課題

- ・教員のより効果的な個別学習の実現に向けた ICT 活用能力の向上。
- ・学習意欲を喚起し、より深い学びに繋げるための授業改善。

団体名 南城市立大里南小学校	連絡先 TEL : 098 - 945 - 2455 Eメール : ozatominamisho@edu.city.nanjo.okinawa.jp
--------------------------	---

1 実践事項 (①「特色ある取り組み」)

タイトル:「主体的に学ぶ児童の育成を目指して」

2 実践内容

(1) 自学自習の充実 (写真1・2)

4月に『自学自習の手引き』を作成・配布し、自分で考え、計画を立てて取り組むことができる児童を目指して、自学自習を進めた。10月には「自学自習パワーアップ週間」を設定し、3年生以上で取り組んだ。自分で計画を立て、めあてを設定、ふりかえりまで行うことで、意識が高まり、内容の向上にもつながった。また、自学自習の優秀児童のノートの掲示を行い、自学自習の充実を図った。

(2) コグトレオンライン・タブレットドリルの導入 (写真3・4)

児童の学習習慣の定着と既習事項の復習・定着を目指すこと、また楽しみながら学ぶことで学習への意欲を高めてもらうことを目的に、1年生～3年生は『コグトレオンライン』、4年生～6年生は『タブレットドリル』を導入した。

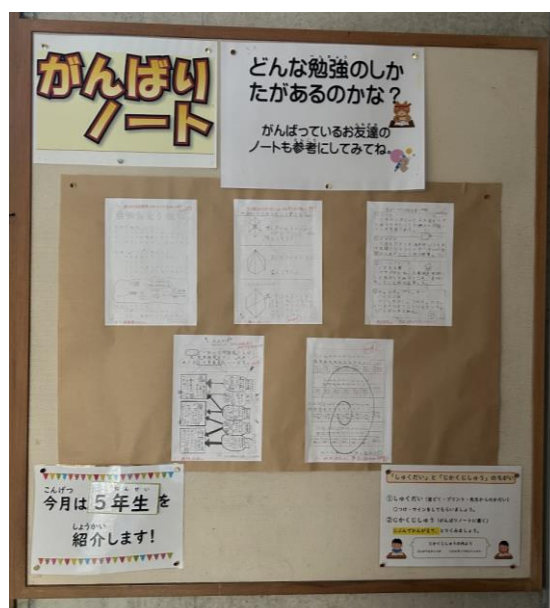
(3) 全学年で計算力テストの実施 (写真5・6)

校長先生自作の計算力テストを活用して、各学年確実に身につけてほしい内容の計算を出題し、全学年で計算力テストを行った。合格点を設定し、全員合格を目指し繰り返し取り組んだ。

3 説明資料 (写真、グラフ、図、表など)

 自学自習パワーアップ週間			
年 組 ()			
★うちの「家庭での学習の手引き」を参考にして、自学自習の計画を立てましょう。			
日付	学習内容	めあて	自己評価
10月7日 (月)			
10月8日 (火)			
10月9日 (水)			
10月10日 (木)			
10月11日 (金)			
10月12～14日 (土・日・月)			
一週間のふりかえり			保護者サイン

〈写真1〉自学自習パワーアップ週間



〈写真2〉自学自習優秀児童のノート



〈写真3〉コグトレオンラインに取り組む様子



〈写真4〉タブレットドリルに取り組む様子

計算力チェック (1~4年生まで) (4年生用)

2桁

① $12+6$ ② $56+3$ ③ $123+75$

④ $15+73$ (ひっ算) ⑤ $352-31$ (ひっ算) ⑥ 8×3

⑦ 7×6

⑧ 9×8

⑨ $23+57$ (ひっ算) ⑩ $268-99$ (ひっ算) ⑪ $632+68$ (ひっ算)

3桁

① $598+339$ ② $1000-49$

③ 7 を 100 倍した数 () ④ 800 を 10 でわった数 ()

⑤ 12×4 ⑥ $54\div 6$ ⑦ $56\div 8$

⑧あまりを出しましょう $78\div 9$

⑨ 108×5 (ひっ算) ⑩ 46×49 (ひっ算) ⑪ 849×51 (ひっ算)

4桁

① $4+9.96$ ② $1-0.097$ ③ $18.3+4.05$ ④ $10.5-9.6$

⑤ 6700×690 ⑥ $76\div 19$ ⑦ $378\div 54$ ⑧ $768\div 24$

〈写真5〉計算力テスト①

計算力チェック (4~6年生まで) (6年生用)

5桁

① $4+9.96$ ② $1-0.097$ ③ $18.3+4.05$ ④ $10.5-9.6$

⑤ 6700×690 ⑥ $76\div 19$ ⑦ $378\div 54$ ⑧ $768\div 24$

⑨ $7\times (8-6)\div 2$ ⑩ $603\div 32$ (あまりを求めよう) ⑪ 75.8×80 ⑫ $4.02\div 6$

⑬ $\frac{3}{7} + \frac{4}{9}$

5桁

① $2-\frac{1}{4}$ ② 40×2.9 ③ 0.49×0.6 ④ $40\div 1.6$

⑤商を一の位まで求めて、あまりを出しましょう。
 $27.5\div 0.4$

⑥商は四捨五入して上から2けたのがい数で求めましょう。
 $6\div 3.4$

⑦(3、4、6)の最小公倍数 () ⑧18と24の最大公約数 ()

⑨ $\frac{2}{5} + \frac{5}{6}$ ⑩ $2\frac{1}{6} + 4\frac{1}{2}$

⑪ $\frac{8}{9} - \frac{3}{4}$ ⑫ $4\frac{3}{4} - 1\frac{1}{2}$

5桁

① $\frac{14}{9} \times \frac{3}{7}$ ② $\frac{15}{54} \times \frac{18}{21}$ ③ x と y の関係を式に表そう。
・1冊x円のチョコを7冊買
うと、代金はy円になります。
()

④ $\frac{49}{2} \div \frac{7}{24}$ ⑤ $\frac{48}{35} \div \frac{16}{5}$

〈写真6〉計算力テスト②

4 成果

- タブレットドリルは、楽しみながら主体的に取り組むことができた。また、自分のペースで取り組めること、自分の苦手な単元も前学年に戻り、復習できることが既習事項の定着につながっている。
- 児童や保護者から「自学自習の仕方がわかり、自分の興味のある学習や苦手な学習に取り組むことができてよい」との声が聞かれ、工夫して学習する子や自学自習への意識が高まった。
- 計算力テストに向けて、定着するまで繰り返し練習した。

5 課題

- 自学自習は、意識が高まり習慣化している児童は一部の児童である。
- クロムブックを活用した実践の充実や情報モラル・マナーについての指導が必要である。

団体名 南城市立 大里北小学校	連絡先 TEL : 098-945-2362 E メール : ookita-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp
-------------------------------	---

1 実践事項（ ② 今年度の実践 ）

タイトル：「「主体的・対話的で深い学び」を育む授業実践を目指して」

2 実践内容

（1）校内研修を通じた授業改善

5月にテーマとサブテーマに沿った目指す児童像を全職員で共通理解するため学推主任が提案授業を行った。参観後全職員で各学年の指導事項・言語活動・教材の特性と目指す児童像を確認した。また単元計画を立てる際には評価する項目や評価規準、評価方法、評価する場面と時間を明確にすることも確認した。全職員が1人1授業と授業反省を行い授業改善を図っている。

本校の目指す児童像	
学習で身につけたことを、自分の言葉で表現できる児童	
低学年	自分の言葉で学習を振り返ることのできる児童
中学年	自分の言葉を使って学んだことを振り返り、次に繋げることのできる児童
高学年	相手意識を持って、自分の思いや考えを表現できる児童

（2）学習の基盤となる規律の徹底

「確かな学力」の定着に向け、その素地となる学習規律を身につけさせるため、「大里北10の学習ルール」を継続している。5月の学推朝会で学習規律を身につけることで育まれる力について全児童に説明し、規律の定着に努めた。9月の学力向上月間では、特に定着に課題がある2つの項目（相手の話をしっかり聞いて分かったことを自分の言葉で表現する、自分の考えをもちししっかり伝えられる）を重点取組とし、1週間ごとに振り返りを行った。

（3）全国学調・学びのたしかめの結果から考える授業改善

夏休みに児童と職員の学校評価から見える課題と、本校正答率の低い問題を全職員で確認した。二学期以降の授業づくりのポイントや国語科・算数科に特化した授業改善のポイントを共通理解し、実践できるようにした。

（4）学力向上月間の取り組み

「授業と連動した家庭学習」に課題があったため、どのような家庭学習が望ましいのかを児童に説明し、模範となる家庭学習のコピーを掲示した。また具体的にどの点が良いのかを給食時間の校内放送で説明するなどして全児童の参考になるよう取り組みを行った。

（5）カリキュラムマネジメントの取組における学習指導

教科等横断的な学習を効果的に進めるため、各学年において総合的な学習を軸としたカリキュラムマネジメントに取り組み掲示したことで、児童自身が身につける力（育みたい資質・能力）を意識して学習に取り組めるようにした。

3 説明資料（写真、グラフ、図、表など）

（1） 国語科の授業改善に向けて（校内研修講師 上江洲朝男先生）



（2） コミュニケーションスキルアップ研修会（講師 吉田文子先生）



（3） 各学年のカリキュラムマネジメントの取り組み



（4） 模範となる家庭学習の掲示



4 成果

- 目指す児童像を明確にしたことで単元計画や毎時間の学習活動・評価規準、評価方法、評価する場面と時間等の授業改善が進んだ。
- 「授業と連動した家庭学習」ができている児童のノートコピーを掲示して具体的に賞賛したことで家庭学習の内容が充実した児童が増えた。
- 各学年のオープンスペースにカリキュラムマネジメント一覧表を掲示することで指導者と児童が見通しをもって学習することができている。

5 課題

- 継続して行っている取り組みが形骸化しないように新たな価値付けをして児童に示す方法
- 授業での学びを家庭学習に生かす、また、日常化につなげていくような自学自習の学習サイクルの確立

【様式1】

団体名:南城市立佐敷小学校	連絡先 TEL:098-947-6212 Eメール:sasho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp
---------------	--

1 実践事項(①)「南城市立佐敷小学校の取り組み」

2 実践内容

【保・幼・こ・小連携】

◎スタートカリキュラム

本校では、幼稚園・保育園等から入学してくる児童がギャップを感じずスムーズに小学校生活に適應できるよう、就学直後の特別カリキュラムとして『佐敷小学校スタートカリキュラム』を計画・実施し、連携する保育園・幼稚園等から参観者をつのり、授業や学校生活の様子を公開した。目的(何のために)及び実践内容(何を)と手立て(どのように)について1学年を中心に各クラスそろえる実践を意識して取り組んだ。



○保幼こ小連携合同研究会

◎佐敷小公開(4月) ◎知念小参観(5月) ◎佐敷保育園訪問(7月)

【小・中連携】

本校では、指導力向上に向け、地区学力向上推進室開催の各研修・公開授業に職員を派遣し、小中連携における公開授業を実施した。

◎小中連携合同研究会

◎高嶺小参観(算数 6月) ◎具志頭中参観(数学 10月)

◎翔南小参観(国語 10月) ◎東風平小参観(12月)

◎小中連携合同研究会(外国語) ◎馬天小参観(7月) ◎佐敷中参観(10月)

◎中学校校区合同研究会 ◎佐敷中学校(10月)



◎小中連携合同研究会(外国語) ◎佐敷小 代表授業 久高優奈教諭(4年3組)(9月)

◎佐敷中校区校長相互授業参観・連携協議(5・7・9・11・1・3月)

◎校区生徒指導・教育相談担当情報交換会(新入生の情報共有・校則の指針について等)

【地域・関係団体との連携】

◎全体での地域・関係団体との連携

・CS構成員との授業公開・情報交換会(各学期) ・中学校区CS構成員との情報交換会(1学期)

・朝の立証活動(支部こども会・地域ボランティア) ・広報誌発行(PTA広報部:各学期)

・童話お話大会(PTA総務部:2学期) ・地域コーディネーターの活用(通年)

◎低学年

・水遊びにおける見守りボランティア(保護者 1学期) ・交通安全教室(与那原警察署 1学期)

・町探検(地域事業所 公共図書館 1学期・2学期)



○中学年

- ・体育リズム表現学習（地域ボランティア 1 学期）・消防署見学（島尻消防署 2 学期）
- ・キャリア教育 職業人講話（6 月）・尚巴志アウトリーチ事業（南城市文化課 12 月）
- ・お仕事調査隊（地域事業所 1 月）



○高学年

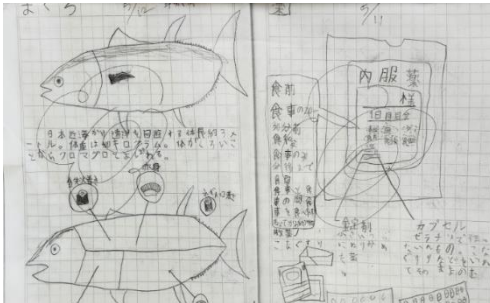
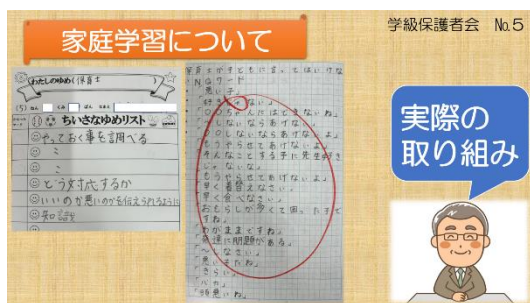
- ・佐敷干潟フィールドワーク（地域ボランティア・保護者 1 学期）・佐敷干潟清掃（2 学期）
- ・民話劇学校アウトリーチ事業（南城市文化課 12 月）
- ・環境教育「モビリティマネジメント」
（南城市企画部政策調整室・バスマップ沖縄・斎場御嶽アマミキヨ浪漫の会 2 学期）
- ・体育学習発表会エイサー演舞の地謡（地域ボランティア 11 月）



【「でっかい夢ノート」の活用】

○「でっかい夢ノート」を活用し、学びを価値づけ、自立した学習者を育む。

これまでの「がんばりノート」をなくし、自分の夢に向かって取り組む「でっかい夢ノート」へと変更し、「やらされている学習」から「自分から取り組む学習」への転換を図る。具体的には、自分の夢に向かって、「小さな夢リスト」を作成し、それを少しずつ取り組み、達成させていく。そのことで、現在、学校で学んでいることが、自分の夢に向かっていくために価値があることを実感させ、学校の学びを価値づけることで、子どもたちの夢に向かう意欲や主体性を引き出すことができると考える。



4 成果

- ・学びのつながりを感じ、家庭や地域での生活経験と体験、既習内容を生かすことへの価値を見いだす児童の姿が見られるようになった。
- ・保護者や地域、関係団体の教育参加意識が高まり、学校・家庭・地域社会の相互の協力のもと、課題や学習に主体的に取り組もうとする児童を地域ぐるみで育成しようとする雰囲気を醸成することができた。
- ・教職員自身が生涯学習者として生活学習の理念の実現に寄与する観点から、より地域の教育資源に対する理解を深め、自己啓発を図ることができた。

5 課題

- ・子どもたちの学びや保護者・地域の学校教育参画をとめない方法を考案していく必要がある。
- ・地域の人材を学校支援ボランティアとしての効果的な活用するための情報収集。
- ・「でっかい夢ノート」の更なる充実を図るため、様々な機会において取組への継続的な説明。

【作成要領】

学校名 南城市立馬天小学校	連絡先 TEL : 098-947-6535 Eメール : basho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp
-------------------------	--

1 実践事項

タイトル：「〈チーム馬天〉で取り組む学力向上」

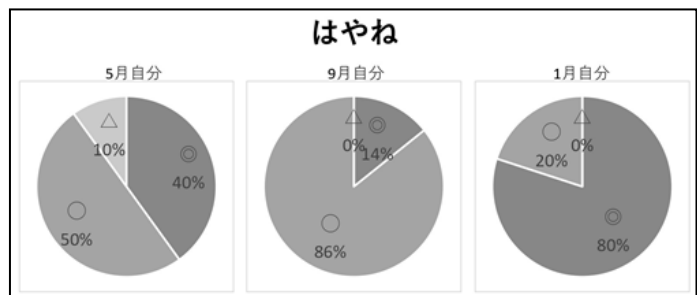
2 実践内容

1. 生活リズムの確立に向けた取り組み「生活リズムチェック」
2. カリキュラムマネジメントを意識した年間ポートフォリオの作成
3. 校内研と連動した授業の質的改善の取り組み
4. 自主的な家庭学習（自主学习）の推進

3 説明資料（写真、グラフ、図、表など）

① 生活リズムの確立に向けた取り組み

「早寝・早起き・朝ごはん・家庭学習」の基本的な生活リズムの確立に向けて、個人で立てた目標が達成できるように取り組んだ。毎学期実施することで、家庭での生活リズムの確立に向けた意識付けを目指している。昨年度に引き続き個人用のタブレットを活用し、結果を視覚化することで、1学期と2学期の自身の変容、学年全体と自分を比較することができた。



生活リズムチェックの取り組みの一例

② カリキュラムマネジメントを意識した年間ポートフォリオの作成

学期中の行事や学習活動を1枚の紙に視覚的にまとめることで、年間の学習内容を一覧で分かりやすく把握することができる。教科横断的な視点で学習内容を組み立てて実践することで、質的な学びの向上を図り、学期毎に取り組む内容について、児童が年間の見通しが持てるように取り組んでいる。学習内容や行事においては、地域の方や関係団体を講師に招いたり、地域行事に参加する等地域とともに歩む学習を行った。

※講師一例…地域人材→「津波古伝統芸能（総合）」「エイサー指導（運動会）」など

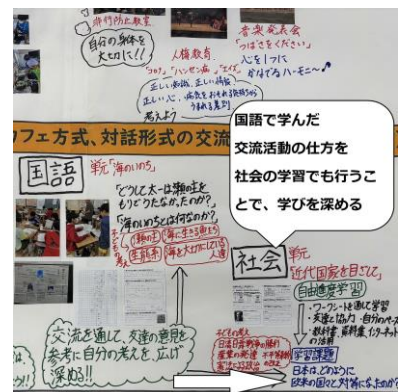
関係団体→「津波古棒術保存会講話」「人権教育」「組踊ワークショップ」など



カリキュラム一覧(全学年で作成)



教科の学びを他教科にも活用(教科横断的な視点)



③ 校内研と連動した授業の質的改善の取り組み

学力向上の取り組みと校内研の取り組みを連動させ、各学年で教科を選択し「児童の交流活動と実態に応じた授業づくり」を念頭に、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう各学年で研究を行っている。また、「一人一授業」「低中高の代表授業」など、他学年の授業を参観し意見交換することを通して、授業の質的改善の取り組みを行っている。さらに「全国学力調査」「学びのたしかめ」などの分析を全職員で行い、落ち込み箇所や今後の取り組みについての対策を共有することで、授業づくりに生かしている。

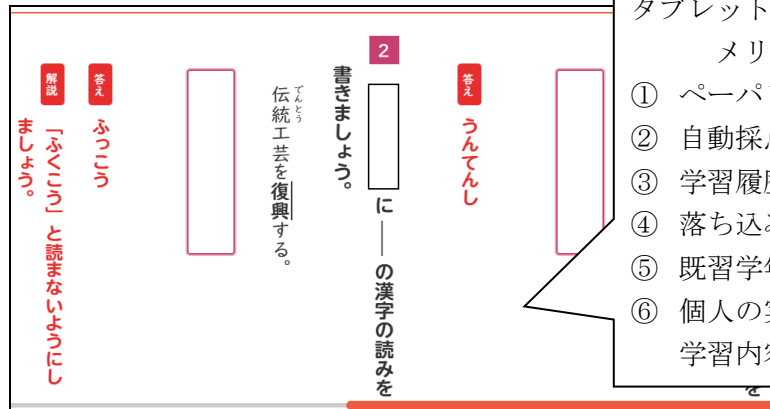
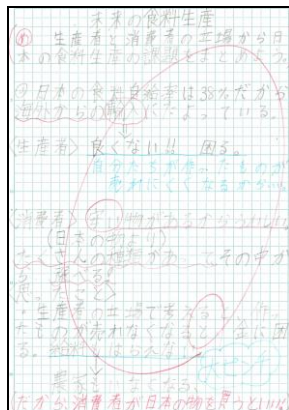


児童の伝えたい思いを大切にした交流活動の研究(代表授業の様子)

授業参観後の授業研究会

④ 自主的な家庭学習の推進(県の重点事項の一つ「自立した学習者の育成」)

宿題と家庭学習を区別し、教師から与えられた課題のみに取り組むのではなく、児童が自分に必要な学習や、興味ある分野について自ら考え取り組む家庭学習(未来ノート)を推進している。取り組む量などは、学年の実態に応じて臨機応変に対応している。タブレットドリルは今後も活用し、既習内容の振り返りや苦手な内容の復習など、個人に適した効果的な学習方法の構築を目指し取り組んでいく。



タブレットドリルの メリット

- ① ペーパーレス
- ② 自動採点
- ③ 学習履歴が残る
- ④ 落ち込み箇所の把握
- ⑤ 既習学年の復習
- ⑥ 個人の実態に応じた学習内容の精選など

興味のある分野についての学習

タブレットドリルの一場面(国語)

4 成果

- 学力向上と、校内研の取り組みを連動させ、学級学年・学校全体で授業参観や情報交換を行い、授業の質的改善に取り組むことができた。
- カリキュラムマネジメントを教科横断的な視点で組み立て、前年度作成したものを掲示したり、ポートフォリオのように可視化することで、年間の学習活動が把握しやすく、次年度の計画をたてる上でも有効な資料作りが出来た。

5 課題

- 自主的な家庭学習の推進は、昨年度から継続的に実施し、タブレットドリルも年度始めから活用できているが、未来ノートにおいてはさらなる取り組みの必要性が感じられる。今後は、お手本となるような未来ノートを授業参観に向けて掲示するなど、家庭学習の取り組みを保護者とさらに共有できるような工夫や実践に取り組んでいきたい。

学校名 南城市立知念小学校	連絡先 TEL : 098-948-1302 Eメール : chisho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp
-------------------------	---

1 実践事項（①または②）

②「特色ある取組」（カリキュラム・マネジメント）

「総合的な学習の時間を要にしたカリキュラム・マネジメントの工夫」

2 実践内容

- ・本校の校内研テーマを「主体的に問題を解決しようと学びに向かう児童の育成～総合的な学習の時間を要とした異学年交流をとおして～」とし、総合的な学習の時間を要にしたカリキュラム・マネジメントの実践を図る。
- ・取り組みの中で、児童が主体的に問題を解決する姿を大切にし、4学年では「みんな大好き！南城市」をテーマに観光学習にチャレンジした。
- ・6学年では、SDGsの観点から「南城市の未来を描こう」というテーマで環境学習にチャレンジした。
- ・いずれの学年もゴールを異学年に分かりやすく伝えることを目標に取り組みを進めていた。
- ・国語科や社会科、特別活動においても、総合的な学習の時間のテーマに関連させた取り組みが進められ、総合的な学習の時間が要となったカリキュラム・マネジメントを進めることができた。

3 説明資料

①第4学年の実践

南城市の魅力に迫り、その良さ、特徴を南城市で観光業や商業施設を営む方々にインタビューや見学を通し学ぶという学習に取り組んだ。児童から「ホテル百名伽藍」、「美らいちご」、「ガンガラーの谷」等の南城市有数の観光施設や商業施設が挙げられ、交渉の結果、各施設が学習のためにと快くインタビューや見学を引き受けてくれた。児童自身で、学ぶ対象、内容、一部見学の交渉等も行い、各教科の学習に結びつけ準備を進めるなどした。学びに向かう主体的な様子がみられたほか、南城市のNバスを活用した取り組みとし、南城市交通政策課の協力を得られるなど、多方面の支えが子どもたちの学びを深くしている。今後学んだことを、3年生等に伝えていく予定である。



ガンガラーの谷見学の様子



がんじゅ一駅での観光協会の方からの説明(右)と、Nバスを利用している様子(左)

② 6 学年の取り組み

「南城市の未来を描こう」をテーマに SDG s に関連させた学習に取り組んできた。独自にビーチクリーンに取り組んだだけでなく、沖縄県南部農林土木事務所主催の知念海岸清掃活動にも参加するなど、体験活動を通した、主体的な学びを引き出す工夫に取り組んでいる。その学びを他教科にも関連させ、総合的な学習を要としたカリキュラム・マネジメントに取り組んでいる。南城市のためにどのようなことができるかを様々な教科に関連づけてまとめ、学習発表会で他学年に広げようと学習を進めている。



ビーチクリーンの様子

4 成果

- ・総合的な学習の時間を要したカリキュラム・マネジメントを行うことで、相手意識・目的意識を持ち、主体的に学びに向かう姿が多くみられるようになった。
- ・各教科を関連させ、カリキュラム・マネジメントの方法が各学年において見通しが持てるようになってきた。

5 課題

- ・もう少し、長いスパンで見通しやゴールイメージを持った取り組みを、子どもたちと共有しながら計画できると、もっと深い学びや主体性を引き出せるかと考える。また、協力を得たり、相談やアドバイスをもらったりという他機関との連携についてもスムーズに行えるかと考える。
- ・カリキュラム・マネジメントの視点で、各教科の関連を考えていく手法やその方向性についての研修を計画し、今後も総合的な学習の時間や生活科を要したカリキュラム・マネジメントを推進し、教師も子どもたちも定着した学び方としていきたい。

団体名 南城市立久高小学校	連絡先 TEL : 098-948-3515 Eメール : kudaka-kyoto@edu.city.nanjo.okinawa.jp
-------------------------	---

1 実践事項（今年度の実践）

「 学ぶ楽しさを味わおう！ 」

2 実践内容

(1) 学習規律の徹底

① 学習用具の準備

授業が終了した時点で、学習用具を片付け、次の授業の準備をする。

② 学習態度の指導

- ・正しい姿勢で座る。
- ・学習の始め・終わりの挨拶をきちんとする。
- ・みんなに聞こえる声で話す。
- ・話す人を見ながら最後まで聞く。

(2) 読み・書き・計算の力の育成

朝学習の時間を使って、基礎基本の定着を図った。

算数・・・1年～前学年までの復習プリント

国語・・・1年～全学年までの漢字プリント、アルファベット、ことばの復習プリント

(3) 掲示物による環境づくり

(4) 体験活動の充実

- ・地域行事への参加や追い込み漁等の体験的な活動
- ・地域の人材の活用
- ・交流学习や島外学習

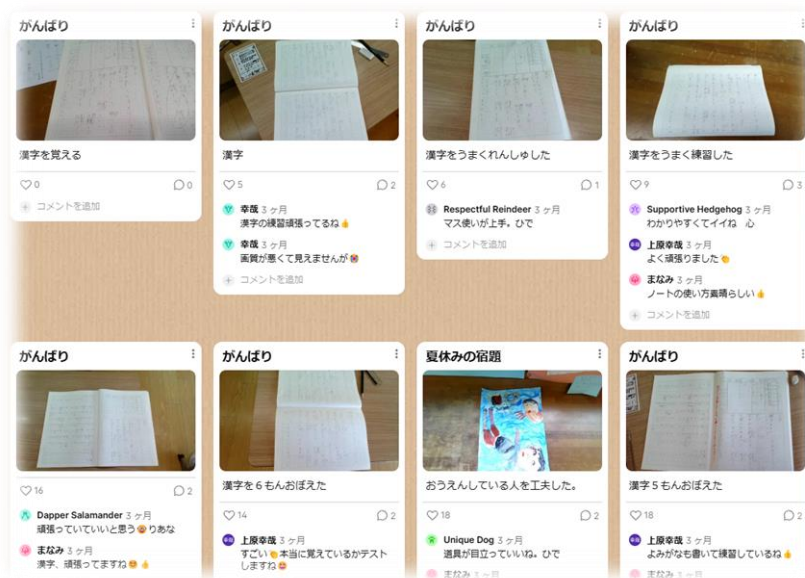
(5) 家庭学習の習慣化

- ・各学年、個人の能力に応じた内容にする。
- ・教員・児童による家庭学習の奨励

3 説明資料（写真、グラフ、図、表など）



地域の人材活用
戦争体験者による
平和学習の講話



家庭学習の習慣化・奨励
タブレットを使い、オン
ライン上の掲示板で
お互いのがんばりをコメ
ントし、学習意欲や内容
の充実につながった。

4 成果

- (1) 学習規律を徹底させることで、学びに向かう姿勢が高まってきた。
- (2) 体験的な学習を通して、理解を深めたり主体的に学びに向かったりすることができた。
- (3) 朝学習で前年度までの復習をすることで、定着が弱いところを自覚して学び直しをすることができた。

5 課題

- (1) 文章を読み取り、根拠となる事柄をもとにした説明が苦手。
- (2) 少人数の為、伝え合う場面で多様な意見が出にくい。また、離島のため生活経験が乏しい児童も多い。
- (3) 基礎学力の定着は、学校だけの取り組みでは限界がある。家庭や留学センターとも協力が必要。

学校名

南城市立久高幼稚園

TEL : 098-948-3950

1 実践事項

①「保・幼・こ・小・中・高・地域・関係団体との連携（幼小・小中・中高・地域）」

タイトル：「お兄ちゃん、お姉ちゃんに伝えたいな」

2 実践内容

〈エピソード1〉

6月21日に久高島の伝統行事であり、久高幼小中学校の学校行事でもある「追い込み漁」が行われることを知り、前年度に参加した園児から、「深いところまで歩くんだよ」「ピザ浜で追い込み漁するんだよ」と、クラスの中で追い込み漁について話題になり始める。「追い込み漁の場所に行ってみたいな」「先生も案内するよ」という話から、散歩がてらピザ浜を見に行くことになった。

メーギ浜で、カツオノエボシみたよ！



久高島はたくさん浜があるね！
ピザ浜はどこだろう？

もっと奥の方で追い込み漁をするよ！



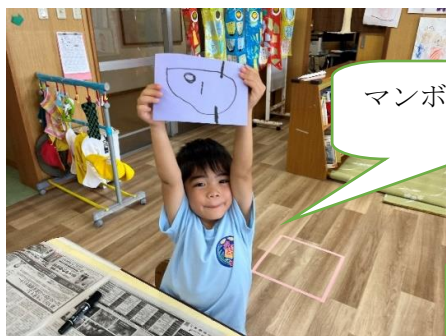
ピザ浜ついたー！

〈エピソード2〉

メーギ浜へ散歩に行った園児は海の生き物に興味を沸き、海の生き物に関する絵本や図鑑を見るようになった。



A児「いろんな魚がいるね」
B児「この魚の絵を描いてみたい！」
教師「描いた魚はどうする？何かの遊びに使えないかな？」
C児「釣竿つくったら魚釣りができるんじゃない？」
B児「いそれいいね！魚の絵を描くから先生紙ちょうだい！」



マンボウ描いたよ！



ハリセンボンだよ！

たくさん取った人の勝ちだ

このハリセンボン誰が
作ったの？似てる！



歯が多いからサメかな？

僕の作った大きい魚頑張っ
てとるぞー！

鱗を細かく描いたり、大きい紙を使って魚の大きさを考えながら描いたり、図鑑を観ながら魚の特徴を捉えて丁寧に描く姿が見られた。

〈エピソード3〉

久高小中学校では、追い込み漁に向けて、地域の方から追い込み漁の歴史、危険生物のビデオ鑑賞、魚のさばき方などを学ぶ授業があり、幼稚園の園児は、魚のさばき方、海の危険生物のビデオ鑑賞に参加させていただいた。

魚のさばき方では、小中学生のお兄ちゃん、お姉ちゃんに教えてもらいながら鱗をとったり、魚を運んだりする体験をした。

海の危険生物のビデオ鑑賞では、地元のダイバーの方から海の危険生物についての解説も交えながらの開催で、園児も終始興味津々であった。

魚のさばき方



なかなかうまくできないなあ～

海の危険生物に関するビデオ鑑賞



イラブーっていうウミヘビがいるんだ

〈エピソード4〉

追い込み漁をするピザ浜へ散歩したり、海の危険生物のビデオを鑑賞したりしたことで、海の生物に興味津々であり、「久高島の海でイラブーが泳いでいたよ」「浜でカツオノエボシがいたよ」と園児の話の中で話し合う姿が見られた。追い込み漁に対する関心が高まる中、海の中に入る怖さや、海の危険生物の怖さから不安になる子もいた。



教師の願い

- 更に海や危険生物の注意事項を知り、追い込み漁を不安なものから、ワクワクするものになってほしい。
- 知ったこと、気付いたことを園児同士で共有して遊びに生かせるといいな。

そこで教師は危険生物の図鑑を用意した。保育室に置かれている新しい図鑑に興味津々であり、早速友達同士で見始める。



教師「海の中は危険な生物がいっぱいだね。幼稚園生は図鑑で知って、追い込み漁本番は気を付けることができるね。だけど、小中学校のお兄ちゃんお姉ちゃんは図鑑の内容知らないね。」

A児「図鑑見せに行こう！」

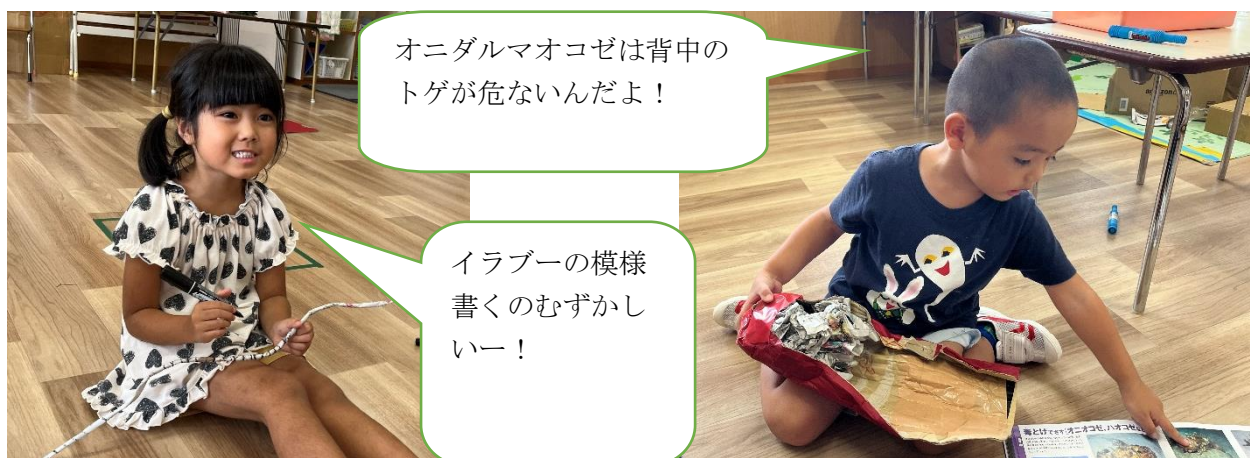
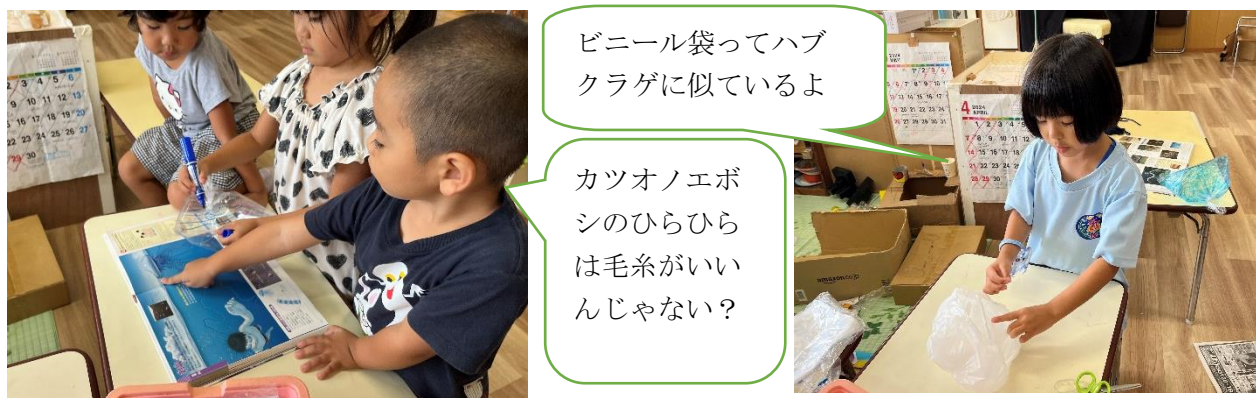
教師「みんなに見せるのは難しいね。ほかにいい方法ないかな？」

B児「絵に描いてかざったらわかるんじゃない？」

C児「僕、絵はうまく描けないよ。うまく描けなかったら危険なこと伝わらないよ。」

B児「図鑑があるから、図鑑をみながら本物みたいに製作物を作ろう！」

図鑑で知ったことを小中学生に伝えるために海の危険生物の製作が始まった。



作品が完成すると、園長先生を呼び、披露し、それぞれの作品の説明をした。また、この作品を作った経緯を園長先生に話し、職員室の前に展示していただけることになった。



これは何を作ったの？

エイを作ったよ！しっぽの針があぶないよ！

教師「小中学校に置けることになって良かったね！でも、園長先生にも知らない生き物がいたね。置くだけだったら、みんな分からないかもしれないね。」

A児「みんなに説明する？」

B児「たいへんだよ。名前書いて、何かわかるようにしたらいいんじゃない？」

C児「そうしよう。私字かけるから、みんなの書いてあげるよ！」

字を書くことが得意な年長児が、製作した生き物の名前を書いた。また、自分たちで内容を考えて小中学生に向けてメッセージを書く姿が見られた。



私が「エイ」って書くね

お兄ちゃん、お姉ちゃんのメッセージはなんて書く？



ノエ

完成した作品を皆で職員室前に置いた。ボシは触ったらだめだよ」と一生懸命説明する姿が見られた。

小中学校に作品を飾った後も、海の危険生物の製作を続け、年長児は年下の子に作り方を教えたり、製作の手伝いをしたりする姿が見られた。作ったクラゲやウミヘビをペットにしてままごとの遊びに取り入れる姿が見られた。

クラゲのペットをつくって一緒に遊ぶ



3 成果

- ・ 幼児の思いに寄り添いながら一人一人の意見を聞き、散歩へ行ったり、図鑑を用意したりして遊びと地域行事を関連させることで、追い込み漁等の地域行事に対する興味・関心が高まったと考える。また、実際に魚をさばいたり、海の危険生物を調べたりすることで、知ったことを他者に伝えたいという意欲が育まれたと考える。

4 課題

- ・ この経験や作品を小中学校の職員や児童生徒に披露することができたが、今後は島民や保育園の園児、またその他こども園等にも経験したことや作品を披露する場を設け、更に幼児一人一人の視視野を久高島だけではなく、様々な地域に広く向けていけるようにしていく。

団体名 南城市立大里こども園	連絡先 TEL : 098-945-2827 Eメール : oozatokodomoen@city.nanjo.okinawa.jp
--------------------------	---

1 実践事項 (幼児に育みたい力)

「園児が主体的に遊びや生活を進める教育・保育活動」

～自立・協働・創造を育む～

【自立】 安定した情緒のもと、自分がしたいことを夢中になってじっくり取り組む力を育む。

【協働】 多様な人々との関わりを通して、互いの良さを認め合いながら協力したり、折り合いをつけながら、遊びや生活をよりよくしていこうとする力を育む。

【創造】 自立・協働を通じて新しい楽しさを生み出し、創意工夫ができる力を育む。

2 実践内容 (具体的な取り組み)

- (1) 幼児理解を深めつつ、幼児の発達の特徴を理解し発達及び生活の連続性に配慮して教育・保育活動を展開する。「自立」
- (2) 園児が園生活や遊びを通して、様々な人と関わる中で自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いを受け入れたりしながら同じ目的に向かって取り組んでいけるよう環境構成や援助の工夫を図る。「協働」
- (3) 園生活の中で園児が試行錯誤しながらそれぞれの目的や共通の目的に向かってじっくり、ゆったりと活動する時間を保障し、想像豊かに表現できるよう援助する。「創造」
- (4) 幼児期において育みたい資質・能力を一体的に育み、「遊びこむ」経験を重ねることで主体的に探究できる力を小学校以降における「学びの基礎」となるよう環境構成と援助の工夫を図る。
- (5) 地域の歴史・文化・自然環境(木育を含む)を活かした教育・保育を通して自然や地域の良さを知り、大切にしていこうとする気持ちを育む。
- (6) 地域や家庭の子育てに寄り添い、安心して子育てができる環境を整え、様々な関係機関との連携を図り、地域・家庭の教育・保育力の向上に努める。

3 説明資料

- (1) 安定した情緒の中、安心して過ごし、いろんなことを「やってみよう」とする。

①毎月2週間、生活リズムチェックカードで「早寝・早起き・朝ごはん・運動」の基本的生活習慣の確立を図る取り組みを実施。



なんじのご褒美スタンプを喜び、意欲や習慣化に繋がっている。



保護者からの「いちばんにねて、いちばんにげんきにおきてくれて、コメント」えらかったね!!さすがはるく!!

保護者も一緒に習慣化を図る意識が高まってきた。

- ②自分がしたいことを夢中になってじっくり取り組む時間を保障する。

パズルを集中して最後まであきらめずに完成させようとしている



いろんな色を使ってぬり絵をじっくりと楽しむ

イメージを形にしながら粘土で表現遊びをじっくりと楽しむ

(2) 友達と考えや力を合わせながら取り組んでいく活動。

① 温泉をつくってみよう

友達と考えを伝えあいながら
トイを工夫してつなげている



温泉の水を運び
トイに流す役目

友達と温泉の水が
もっとたまる方法
を考える。

友達とイメージを共有し、
同じ目的に向かって協力
しながら遊ぶ

② ペープサートに物語を添えて披露する。

手作りのペープサートに
お話を添え、お友達の前で
披露する。



友達とセリフのタイミング
を相談する。

お客になって、お友達
の披露するペープサー
トを見て楽しむ。

(3) 試行錯誤しながら自分なりの表現を楽しみ新しいものを創り出す活動。

① 試行錯誤を繰り返しながら
自分のイメージを形にしたり
表現したりすることを楽しむ

魔女のほうきと帽子とか
ばんを作ってみました。



いろいろな素材を準備す
ることでイメージを広げ
創る楽しさを味わうこと
ができる。
園児の中にはイメージに
合う素材を自宅から持参
するなど目的意識を持っ
て取り組む子もいる。

② 身近な素材を使って作りたいもののイメージを形にしたり、
作ったもので遊んだりする中で遊び方を考えたり、友達とルールをつくり出したりする。

違う素材を繋げる
ためにはどんな方
法があるのかを考
えたり相談したり
しながらじっくり
と製作を楽しむ。



作ったもので試し
たり工夫したりし
て遊ぶ時間をたっ
ぷりと確保するこ
とで存分に遊びこ
む。

(4) 主体的に環境に関わり「遊びこむ」経験を重ねる。



草滑りの敷き物を
変えてみたり、滑
り方を工夫して何
度も繰り返し試し
てみることで遊び
こんでいる



園庭の草花を使って
じっくりと砂遊びや
色水遊びが楽しめる
ように、遊びに使え
る草花や遊びに必要
な用具を意図的に整
えておく。

水辺の卵を見つけ、早速
図鑑で調べてみる。



調べたことを基にカエルの卵
のお家を協力して造る。

ガラスの曇りに不思議さを感じ
天気のおもしろさに気付く。



(5) 自然物を保育に取り入れたり、地域の歴史や文化に触れたりする体験活動。

①身近な自然物を使って表現遊びを楽しむ。



身近な自然物(木の実や葉っぱ、枝、草花など)を意図的に準備して置くことで主体的に環境に関わり製作や表現遊びが広がった。

②園内に木製玩具や木製遊具を設置、日頃から子供達の周りに木のぬくもりを感じられるように環境を整えて、木の香りや音、肌触りを味わい、同じ大きさでも木の種類によって重さに違いがあることなど発見を楽しみながら環境に関わっている。

友達とイメージを共有しながら協力し合って一つの作品を作ったり、1人で集中して積み上げのチャレンジを繰り返し取り組む子もいる。



高く積み上げるには
どうしたらいいか試
行錯誤を繰り返す

③地域の人材を活用したり、歴史や文化に触れたりする体験活動。



地域の方に鬼ムーチーの由来について手作りの大型紙芝居で読み聞かせを実施



園外保育・地域を知ろう
大里城址公園に行ってみよう



お盆に地域のお祭りに参加し、エイサーや
チョンダラーに関心を持ち
真似っこを楽しむ

(6) 地域・家庭の教育・保育力の向上を図る。

①親子体験活動を通して、親子の触れ合いを楽しんだり、親子で木育について学ぶ機会を設けた。

年少：触れ合い体操

年中：クラフトで指ハブ制作

年長：自然物(木の枝)でペン作り



年少組



年中組



年長組

②子育て広場（関係機関と連携し年に9回の子育て講座を実施）

講座内容については、
子育てのヒントになるような
内容を計画し、随時子育ての
悩みについての相談業務も行
っている。



4 成果・課題・改善策

① 成果

- ・友達とイメージを共有しながら遊べる環境を意図的に設け、じっくりと遊べる時間を確保したことで「遊びこむ」姿につながった。
- ・園児や保育教諭間の保育の振り返りを通して、園児が環境に主体的に関わり、豊かな体験をすることで遊びこむ姿につながった。
- ・園児が心動かされるような体験を通して、「面白そう、もっとやりたい」という園児の心の動きを捉え、多角的に園児の姿や保育教諭の援助について話し合い、その時期や園児の実態に応じた、必要な育ちや保育教諭の援助を確認しながら保育を見直すことで、遊びが発展し遊びこむことに繋がった。

② 課題・対応策

- ・園児同士、協力したりする楽しさや充実感を味わうことができるよう、園児の個性や良さを捉えた、更なる援助の工夫が必要である。
- ・園児の心を揺さぶり、友達との関わりが深まるような体験ができる環境構成と援助の工夫。（土山などを作り、泥や土をもっとダイナミックに関わることができる環境作り等）
- ・幼児理解に努めながら遊びに必要な環境構成を行ってきたが、遊びが更に発展していくように個々の発達段階に合わせた援助や環境構成の工夫が必要である。
- ・発達段階を捉え学年間だけの遊びにとどまらず異年齢の良さを考慮し、職員間で遊びを共有する機会を設ける必要がある。異年齢で遊びを共有することで刺激を得ることができ遊びの広がりも期待できる。

「南城市教育の日」を定める規則

平成 27 年 3 月 25 日

南城市教育委員会告示第 1 号

「南城市教育の日」を定める規則を次のように定める。

（目的）

第 1 条 教育に対する市民の意識と関心を高めるとともに、南城市の明日を担う子どもたちの健やかな成長を願って、学校・家庭・地域及び行政が連携し、市民全体で教育に関する取組を推進するため、南城市教育の日を定める。

（南城市教育の日）

第 2 条 南城市教育の日は、1 月最終日曜日とする。

（南城市教育月間）

第 3 条 南城市教育の日の目的にふさわしい取組を行う月間として、毎年 1 月を南城市教育月間とする。

（補足）

第 4 条 この要綱の定めるもののほか、南城市教育の日に関し必要な事項は、教育長が定める。

（附則）

この規則は、公布の日から施行する。

南城市の教育目標

南城市教育委員会は、生涯教育・生涯学習の理念のもとに、教育基本法の問題に則り、国や県の教育施策との整合性を図りながら、南城市総合計画を踏まえ教育目標を以下のように掲げる。

家庭における教育力の向上

知・徳・体の調和の取れた幼児・児童・生徒の育成

生涯学習の理念のもと積極的に学ぶ市民の育成

市民性教育（シチズンシップ教育）の推進

南城市民としてのアイデンティティーの確立